



宝塚市生態系レッドデータブック2012

平成 24 年 3 月

宝塚市

はじめに

宝塚市は、北部地域に里地里山環境を有し、市街地を六甲山系や長尾山系に囲まれています。市内の河川は武庫川水系および猪名川水系を構成し、山地の緑地から清流を集めた河川が武庫川となって市街地を流れています。市内には、丸山湿原や市の天然記念物である松尾湿原、阪神間でも有数の武庫川溪谷（武田尾溪谷）、南部市街地と北部地域を分ける長尾山系など、変化に富んだ生態系にさまざまな種類の動植物が生存しています。

さらに、本市は千年以上の歴史を持ち、日本三大植木産地のひとつに挙げられる「植木のまち」であり、長尾地区を中心に多数の園芸植物が栽培されています。また、雲雀丘などに代表される山麓部の住宅地では、緑豊かな街並みが形成されています。

このように、北部地域に広がる里地里山環境と、南部市街地の緑豊かな街並みが、私たち市民の感性を豊かにし、多様な地域文化の醸成に寄与してきました。

しかしながら、近年、開発による緑地の減少や、生活様式の変化による里地里山の荒廃などにより、昔はどこにでもいた動植物でさえ絶滅が心配されるようになってきました。さらに河川、ため池を中心に、外来種による生態系の攪乱も加わり、本市の豊かな生物多様性が失われつつあります。

こうした問題が地球温暖化による影響とともに、地球上のさまざまな地域で顕在化していることを踏まえ、平成4年（1992年）には「生物の多様性に関する条約」が国連環境開発会議（地球サミット）で採択されました。また、国内では、平成20年（2008年）に「生物多様性基本法」が制定され、生物多様性の保全及び持続可能な利用を推進するための基本原則などが定められました。平成22年には、名古屋市において「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催され、我が国の地名を冠した議定書が締結されるなど、生物多様性の保全に関する気運が国内外で高まっています。また、国内の各地方でも生物多様性地域戦略の策定が進み、平成21年3月には兵庫県が生物多様性ひょうご戦略を策定しました。

このような背景のもと、宝塚市では、「生物多様性たからづか戦略」を平成24年3月策定しました。

「生物多様性たからづか戦略」の取り組みと課題の一つとして、平成12年（2000年）に策定した生態系レッドデータブックの見直しを掲げており、市内の生物相や貴重な自然環境に係る情報を追加、反映し、重要な生態系を見直し、今後の保全に活用することとしています。

生態系レッドデータブックの見直しを契機に本書を公開することで、多くの市民の方々に宝塚市の重要な生態系についての理解を深めていただき、「生物多様性たからづか戦略」をより効果的に推進していきたいと考えます。

目次

1.	生態系レッドデータブックの見直しにあたって	1
1.1	見直しの意義と経緯	1
2.	宝塚市の自然環境	2
2.1	市域の概況	2
2.1.1	位置	2
2.1.2	土地利用	3
2.1.3	標高	4
2.1.4	流域	4
2.1.5	地形	6
2.1.6	表層地質	6
2.1.7	現存植生	7
2.1.8	植生自然度	8
2.1.9	自然環境の保全に係る区域などの指定状況	9
2.2	宝塚市の地域区分	10
3.	重要な生態系の選定	12
3.1	生態系の考え方	12
3.2	生態系の捉え方	13
3.3	重要な生態系の名称	14
3.4	スポットのランク付け	15
3.4.1	評価項目の設定	15
3.4.2	評価点の与え方	17
3.4.3	評価の区分	18
3.4.4	改定にあたっての現地踏査の位置づけ	18
4.	選定の結果	19
4.1	選定結果の概要	19
4.1.1	スポットの選定結果	19
4.1.2	エリア・ゾーンの選定結果	20
4.1.3	地域的な分布状況	22
4.2	重要な生態系の概要	24
4.2.1	スポット	24
4.2.2	エリア	36
4.2.3	ゾーン	50
5.	参考文献	57

1. 生態系レッドデータブックの見直しにあたって

1.1 見直しの意義と経緯

宝塚市は、六甲山地及び長尾山地、武庫川、ミヤマアカネが飛び交う逆瀬川、小仁川、西谷の里地里山や丸山湿原などの豊かで貴重な自然環境と、その自然環境に調和したゆとりと潤いのある住宅地や緑あふれる田園風景など、地域ごとに特色のある美しい都市景観が魅力であり、市民の財産です。しかしながら、近年これらの宝塚の魅力の基盤となる生物多様性は、緑地の減少や里山の荒廃などにより年々失われつつあります。このため、行政と市民などが協働し、生物多様性の保全を推進することを目的として「生物多様性たからづか戦略」を策定しました。

生態系レッドデータブックは、この「生物多様性たからづか戦略」を効果的に推進していくうえで、市民が市域の重要な生態系について理解を深め、また事業者が生態系に配慮して開発計画をすすめるための一つの指針となることを目指しています。

2. 宝塚市の自然環境

2.1 市域の概況

2.1.1 位置

宝塚市は兵庫県の南東部に位置し、近畿地方のほぼ中心部にあります。
東西南北の生物の移動や分布の拡大経路ともいえる立地条件を有しています。

緯 度：34° 47' 50"（宝塚市役所）

経 度：135° 21' 36"（宝塚市役所）

最高地点：海拔 591.0m（東京湾の平均海水面からの高さ）

最低地点：海拔 18.1m（東京湾の平均海水面からの高さ）

東西距離：12.8km

南北距離：21.1km

面 積：101.89km²

引用) 平成 22 年版 宝塚市統計書

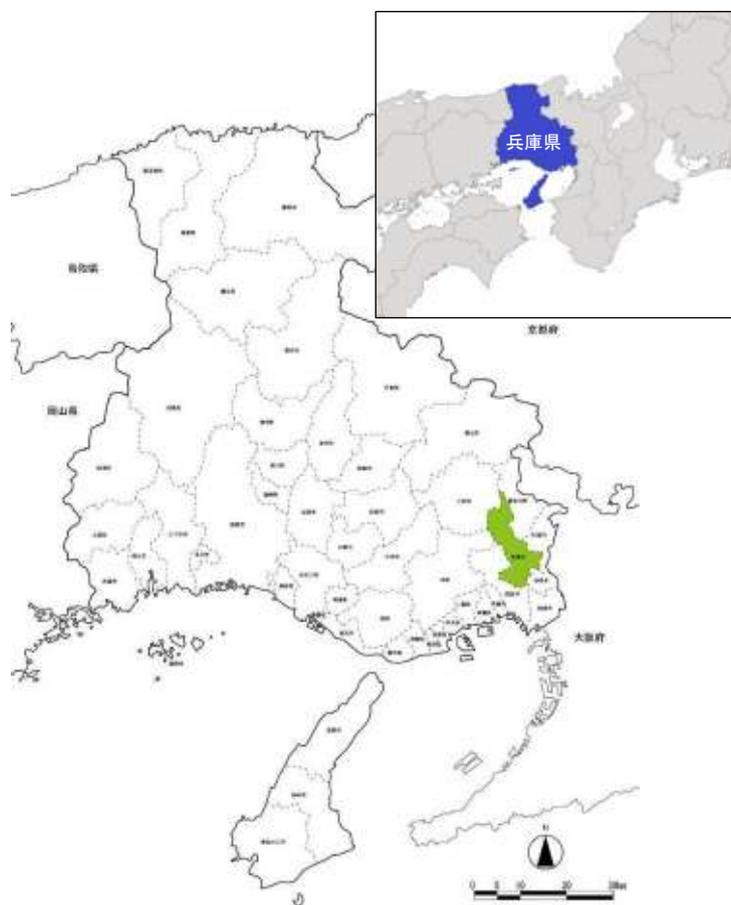
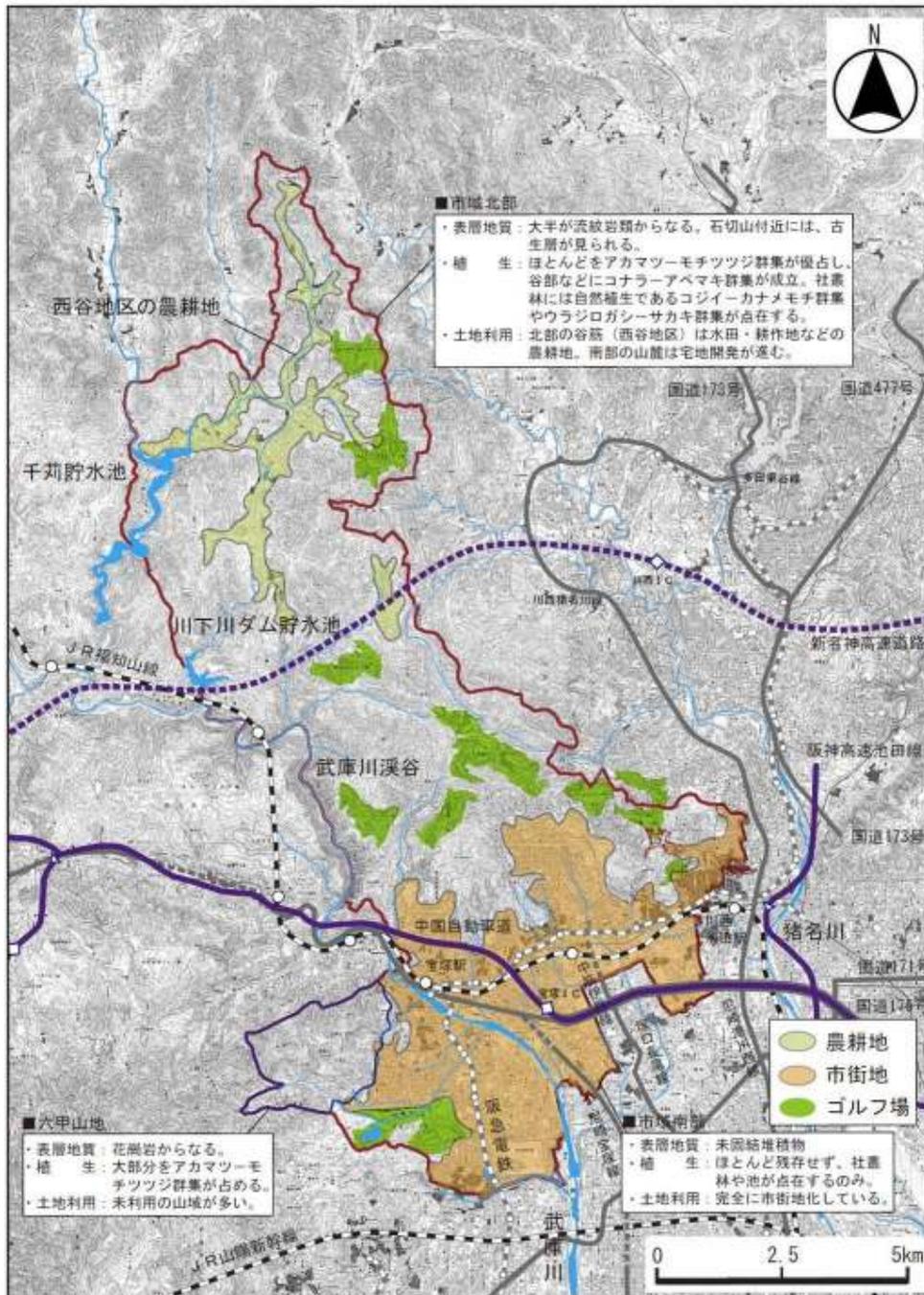


図 2.1-1 宝塚市の位置

2.1.2 土地利用

宝塚市の地形は、北部の北摂山地、南西端部の六甲山地、武庫川左岸の伊丹台地、武庫川右岸の六甲山南東山麓及びその間の武庫川低地に大別できます。南部の台地及び低地はモダンな街並みを誇る市街地となっており、その周辺には六甲山地・北摂山地の山並みが山麓部の住宅地を包み込むように広がっています。



※図中の農耕地、市街地、ゴルフ場は、概ねの分布範囲を記載しています。

図 2.1-2 宝塚市の土地利用概況

2.1.3 標高

宝塚市は、南部の平野部から丘陵地、山地へ連続しており、標高はおおよそ 20m から 600m の間にあります。市の南西端部には標高 300m 以上の六甲山地が分布しており、宝塚市の標高の最高地点（591m）や、宝塚市の最高峰である岩原山（573m）があります。市の中央部には大峰山（552m）を頂点として標高 300m 以上の北摂山地が広がっています。市域南部には台地が形成されており、標高は概ね 60m 以下です。

2.1.4 流域

(1) 流域の概要

宝塚市は 2 つの流域に大別されます。市域の大部分は武庫川水系（武庫川は二級河川）に属しています。市北東部の猪名川町や川西市との境界付近は、猪名川水系（猪名川は一級河川）に属しています。仁川合流点付近から下流の武庫川は、六甲山地から流出する土砂のため、市街地より河床が高い天井川の様相を呈しています。

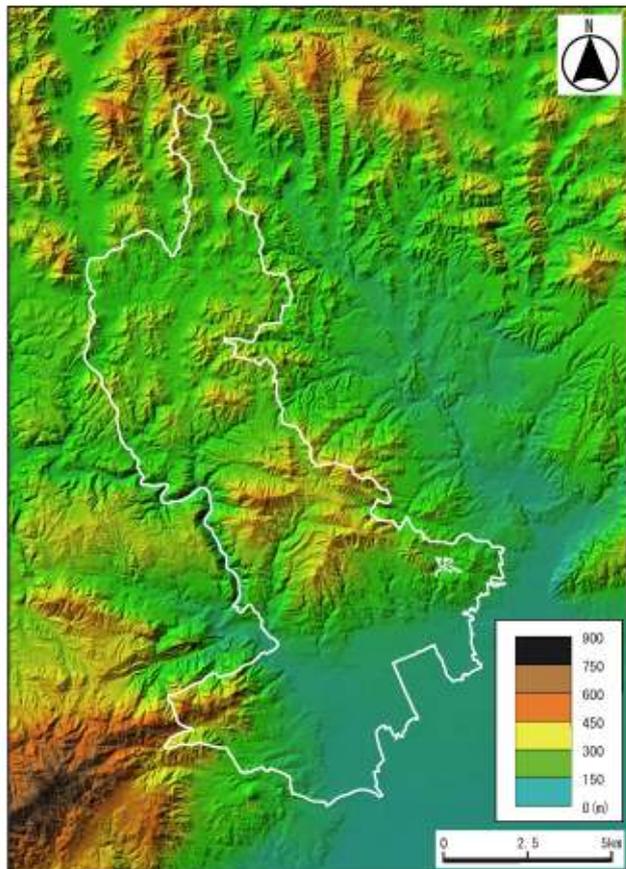


図 2.1-3 宝塚市の標高区分



図 2.1-4 宝塚市の流域区分

(2) 主な河川とため池

宝塚市内の河川は 40 程度に区別されます。市内を流れる河川の多くは武庫川に合流しますが、一部は猪名川水系に属しています。武庫川の生瀬から仁川合流点までの間に流入する河川は、六甲山地と長尾山地を源としています。六甲山地を源とする河川の多くは勾配があり、武庫川まで一気に流下しますが、下流部では水無川となっている河川もあります。長尾山地を源とする河川（大堀川、天王寺川、荒神川など）は、ほとんどの河川に流水があります。源流部の斜面は緑地となっており、下流の市街地に清流を供給しています。西谷地区の河川は、川下川ダムまたは千苧貯水池を経由して武庫川に合流します。長尾山地を源とする最明寺川や西谷地区の一部の河川は、猪名川に合流します。

ため池は、市内全域に点在しています。西谷地区のため池の多くは農業かんがい用として利用されています。南部のため池は、農業かんがい用として利用されるとともに、市街地の生物の生息空間として、また、親水アメニティ空間としても活用されています。

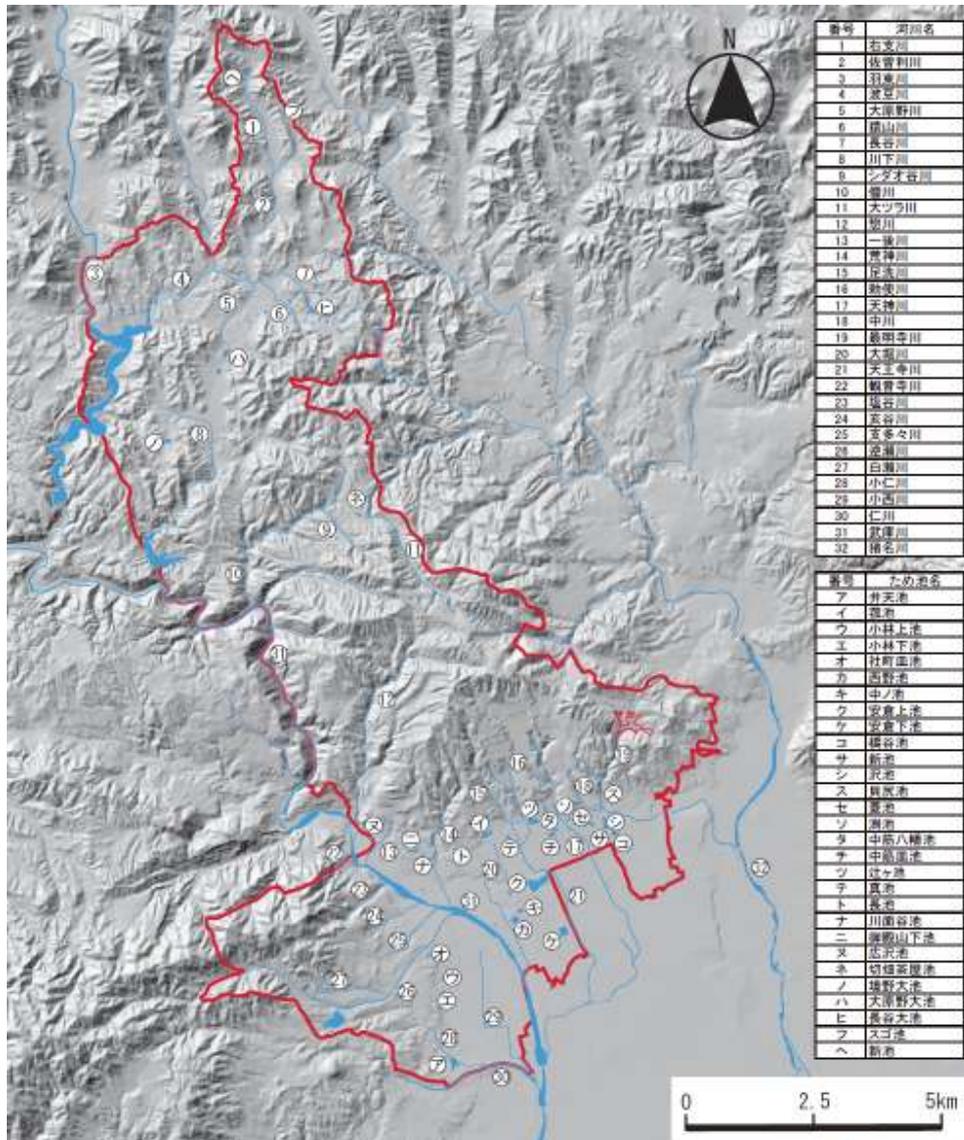


図 2.1-5 宝塚市の主な河川とため池

2.1.5 地形

宝塚市は、南北に長く位置しており、南東部の丘陵地、台地、低地とその他の地域の山地に大別されます。

山地は、北部では大峰山（552m）を最高に、標高 300m以上の大船山山地などが連なり、南西部には標高 300m以上の六甲山地、有馬-高槻構造線の北側には長尾山地が広がります。南東部には、甲山周辺丘陵、上ヶ原台地、伊丹台地、武庫川低地が広がります。

宝塚市から神戸市、西宮市に延びる武庫川溪谷（武田尾溪谷）は「兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2011（地形）」において先行河川、貫入蛇行としてBランク（Aランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県の価値に相当するもの）に区分される県下でも貴重な地形です。

2.1.6 表層地質

宝塚市の表層地質の大半を占める山地は、主に火山岩の一種である流紋岩類より構成されています。このような地質条件では、表層の風化が進みにくく、土壌の発達はよくありません。南部の六甲山地は、主に花崗岩地質地帯から構成されています。伊丹台地や六甲山南東麓台地は、段丘堆積層、武庫低地は沖積層から構成されています。

宝塚市には、市街部を東西に走る有馬-高槻構造線と、玉瀬南方 1km 付近に延びる十万辻断層の大きな二つの断層があります。このうち、十万辻断層は「兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2011（地質）」のBランクに区分される県下でも貴重な地質です。



図 2.1-6 宝塚市の地形区分

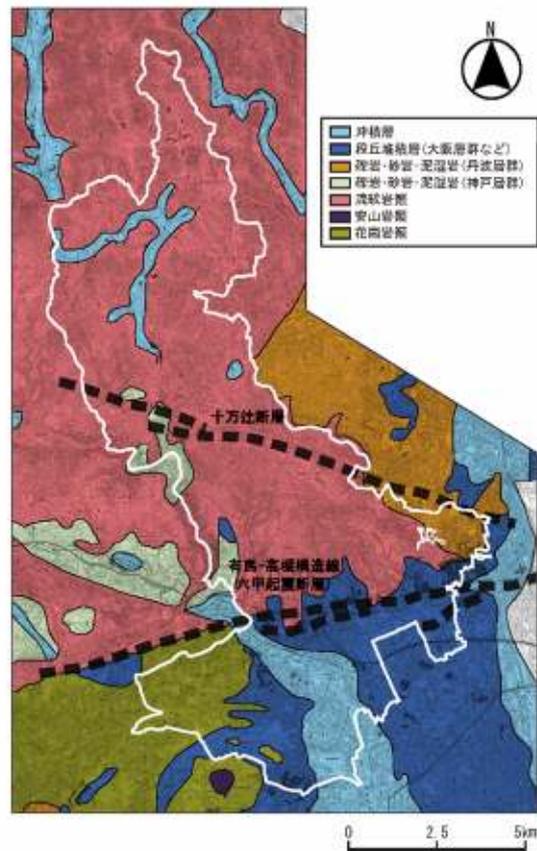


図 2.1-7 宝塚市の表層地質

2.1.7 現存植生

森林域のほとんどをアカマツ－モチツツジ群集が優占し、谷筋などの比較的土壌が発達した場所では、コナラーアベマキ群集が成立します。これらの二次植生が宝塚市の緑の骨格を形成しています。気候的な自然植生である照葉樹林は、清荒神清澄寺や満願寺などに分布するコジイ－カナメモチ群集と塩尾寺に残存するウラジロガシ－サカキ群集に区分されますが、いずれも小面積で孤立しています。平野部をはじめ、丘陵地、台地の大部分は宅地として開発されており、植生がほとんど消失した状態です。

宝塚市を代表する貴重な植生としては、武庫川溪谷（武田尾溪谷）の溪流辺植生、西谷地区の農耕地に点在するため池の植生があげられます。土壌の発達の悪い流紋岩類からなる北摂山地の谷や斜面には湿原が点在しており、丸山湿原や松尾湿原など県を代表する湿原が見られます。

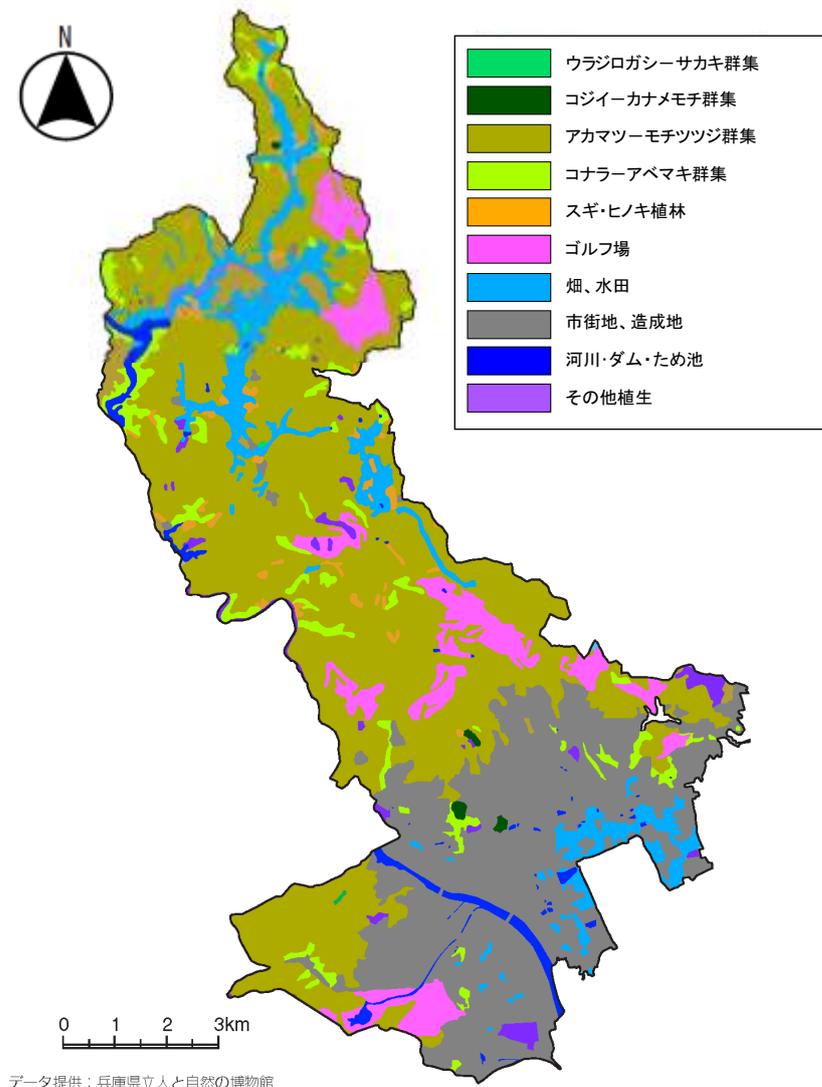


図 2.1-8 宝塚市の現存植生

2.1.8 植生自然度

植生自然度とは、人間の開発行為により自然がどの程度改変されているかを、植生から判断し、10段階に区分したものです。宝塚市は、大都市近郊の良好な住宅地として古くから開発されてきました。そのため、平野部などは市街地、農耕地などと自然度が低くなっています。森林域は自然度7の二次林（アカマツ－モチツツジ群集、コナラ－アベマキ群集など）が多くを占めていますが、一部は自然度2のゴルフ場となっています。自然度が高い植生としては、局所的に分布する社寺林、湿原、河川植生などがあげられます。

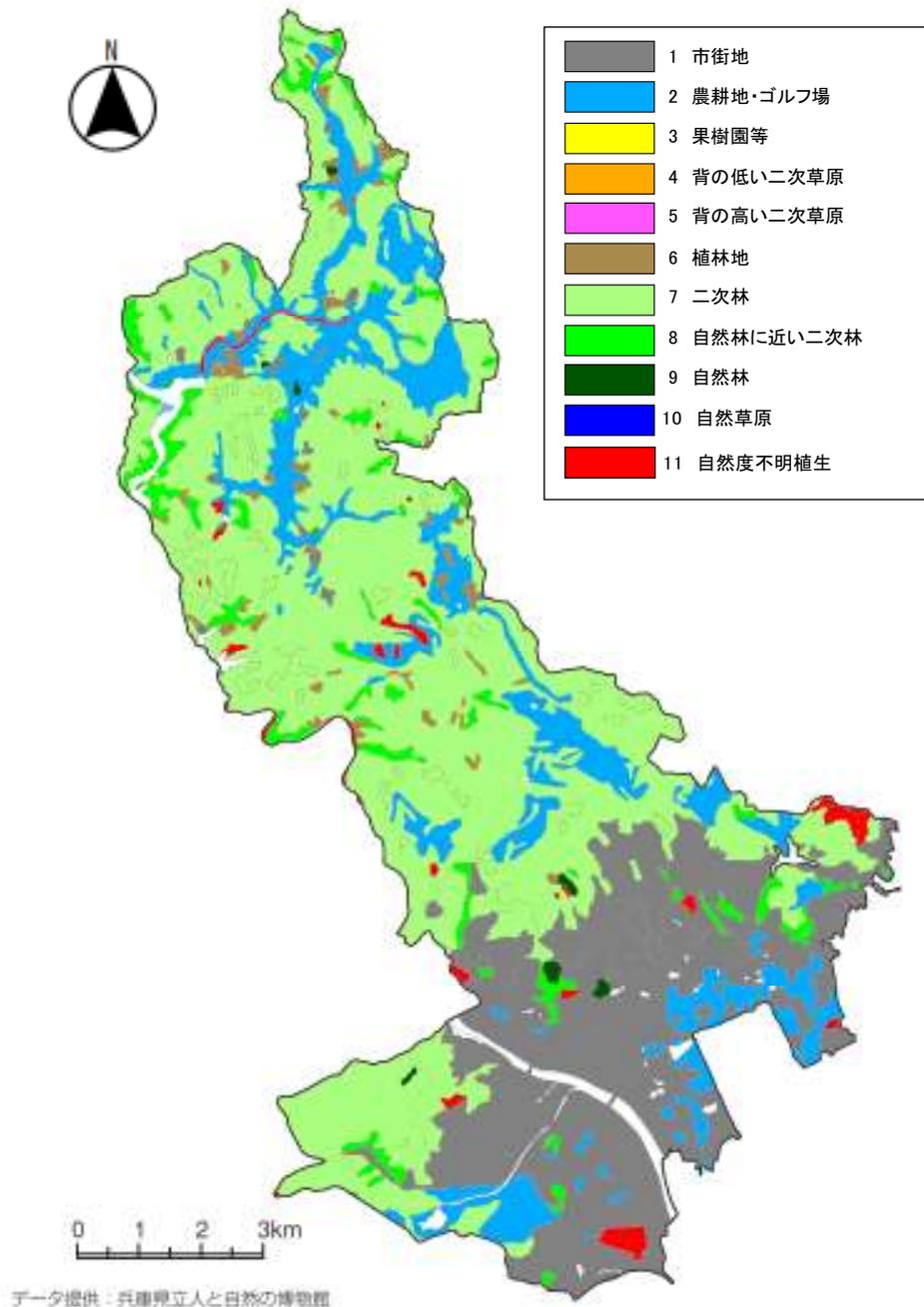


図 2.1-9 宝塚市の植生自然度

2.1.9 自然環境の保全に係る区域などの指定状況

宝塚市内では、以下の法令などにより、自然環境の保全に係る区域などが指定されています。
昭和 56 年以降、重要な自然の分布は確認されていましたが、天然記念物などに指定されていません。

表 2.1-1 自然環境の保全に係る区域などの指定状況

保全地域	根拠となる法令など	役割
武庫川 二級河川 水質基準 B 類型	環境基本法 水質汚濁に係る環境基準について	公共用水域の水質汚濁に係る環境上の条件により、人の健康を保護し、生活環境の保全を図る。
瀬戸内海 国立公園	特別保護地区 第 1 種特別地域 第 2 種特別地域	自然公園法 各種行為の制限規制により、自然の風景地を保護する。
近郊緑地保全区域 近郊緑地特別保全地区	近畿圏の保全区域の整備に関する法律	各種行為の制限規制により、緑地の保全を図る。
特別緑地保全地区	都市緑地法	各種行為の制限規制により、緑地の保全を図る。
保安林	森林法	伐採や開発行為、用地転用などを規制することで、森林の持つ公益的な機能を保全する。
鳥獣保護区	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律	狩猟の適正化と鳥獣の保全を図る。
環境緑地保全地域	兵庫県環境の保全と創造に関する条例	建築物及びその敷地の緑化について規則を設け、ゆとりと潤いのある美しい環境を創造するとともに、ヒートアイランド現象を緩和する。
自然環境保全地区	宝塚市自然環境の保全と緑化の推進に関する条例	自然環境の保全と緑化の推進に関し必要な事項を定めることにより、良好な環境の確保を図る。
天然記念物	宝塚市文化財保護条例	文化財を保存し、活用を図り、市民の文化的向上に資するとともに、我が国文化の進歩に貢献する。

表 2.1-2 宝塚市の天然記念物

名 称	区分	指定年月日
オオサンショウウオ(波豆川他)	国指定	昭和 27 年(1952 年)3 月 29 日
丸山湿原(玉瀬)	県指定	平成 27 年(2015 年)3 月 10 日
カヤ(下佐曾利)	市指定	昭和 48 年(1973 年)3 月 30 日
素盞鳴命神社社叢(大原野)	市指定	昭和 48 年(1973 年)11 月 3 日
売布神社社叢	市指定	昭和 51 年(1976 年)3 月 30 日
清荒神清澄寺自然林	市指定	昭和 51 年(1976 年)3 月 30 日
イチョウ(清荒神清澄寺)	市指定	昭和 51 年(1976 年)3 月 30 日
センダン(妙玄寺)	市指定	昭和 51 年(1976 年)11 月 15 日
松尾湿原(大原野)	市指定	昭和 53 年(1978 年)3 月 20 日
タラヨウ(阿弥陀寺)	市指定	昭和 54 年(1979 年)3 月 6 日
満願寺自然林	市指定	昭和 56 年(1981 年)3 月 6 日

2.2 宝塚市の地域区分

「生物多様性たからづか戦略」では、生物多様性の観点から、以下の地域毎に環境要素を大別しています。

市域の重要な生態系が「生物多様性たからづか戦略」に基づいて適切に保全されるために、本書においても「生物多様性たからづか戦略」と同じ区分を用いて整理します。

表 2.2-1 宝塚市の環境特性に基づく地域区分

地域名	地形区分	地域の環境特性
北部地域 (西谷地区)	大船山山地 大野原低地 古宝山山地 長尾山山地	<ul style="list-style-type: none"> 大原野低地を中心に大船山山地と古宝山山地にとり囲まれた地域と、大峰山周辺の山域を含む地域です。 平地部の農村集落、農地と里山が構成する自然の恵み、豊かな環境を形成しています。 川下川流域、羽束川流域、波豆川流域はそれぞれ、本市及び神戸市の水道水源流域となっています。 武庫川溪谷（武田尾溪谷）を含む地域で、山地は武庫川の水源を涵養しています。 本地域では、樹林の一部はゴルフ場や採石場となっています。
長尾山地域	長尾山山地	<ul style="list-style-type: none"> 長尾山に該当する地域です。 山麓部が広く宅地化されています。 多くの“まち山”との共存が、宝塚市街地の生物多様性の保全の重要課題となっています。 中山の主稜線の北側にはゴルフ場が複数分布します。 本市南部のみならず阪神間の景観の骨格として、市域南部の市街地の重要な環境資源です。 武庫川の水源を涵養し、野生生物の生存空間として大きな役割を果たしています。
六甲山地域	六甲山地	<ul style="list-style-type: none"> 六甲山に該当する地域です。 兵庫県南部の生物多様性の核となる六甲山に連なる地域であり、野生生物の生存空間として重要な意味を持ちます。
山麓地域	宝塚段丘 長尾山山麓扇状地群 甲山周辺丘陵 川西丘陵 長尾山山地の市街地部	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵地や扇状地に位置する区域で、広く宅地化されています。 武庫川及びその支流河川やため池が分布します。
南部地域	伊丹台地 上ヶ原台地 武庫川低地 猪名川低地	<ul style="list-style-type: none"> 主に武庫川低地と伊丹段丘上の平坦地です。 広く市街地化されています。 武庫川の本流及び支流河川や水路、ため池が多く分布します。 武庫川左岸側には農地が点在します。

引用)「生物多様性たからづか戦略」(平成24年3月, 宝塚市)

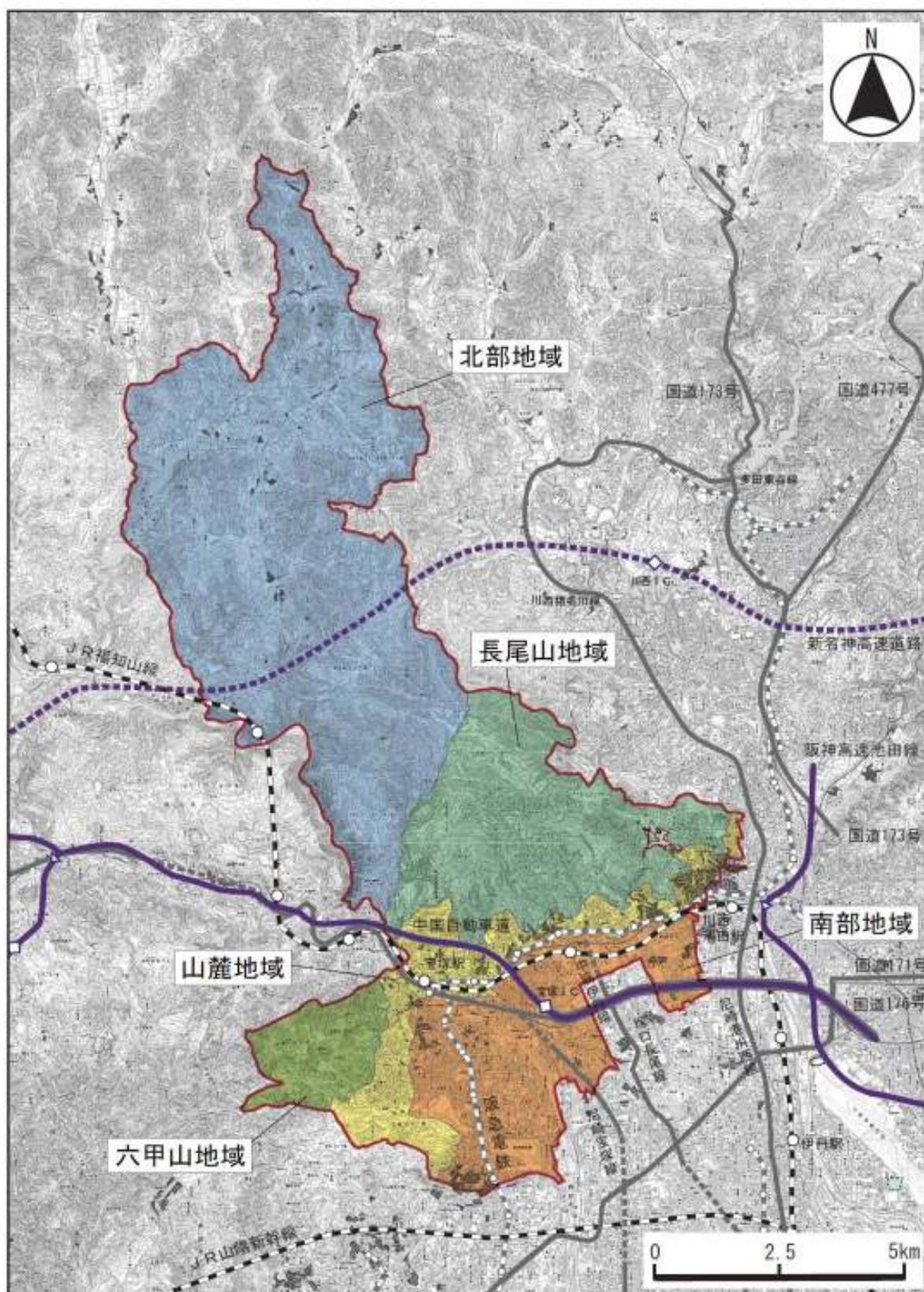


図 2.2-1 宝塚市の環境特性に基づく地域区分

3. 重要な生態系の選定

3.1 生態系の考え方

生態系 (ecosystem) とは、「生物群集と無機的環境からなる一つの物質系」と解説されています (沼田編、1983)。最も大きな生態系は地球であり、地球上の生き物、土壌、水、大気、光が地球という閉鎖系の中で、数十億年もの間、循環し維持されてきています。この地球の中では、相互に関連しあいながら、海の生態系、砂漠の生態系、山の生態系などのように環境ごとに生態系が形成されています。

宝塚市の場合でも、先に述べたように南部の市街地の生態系、北部の農耕地域の生態系、二次林の生態系などが形成されています。さらに農耕地域の生態系は、水田の生態系や池の生態系などに区分していくことができます。そこで本書では、生態系の基本となる単位を検討し、それを小生態系と位置づけ、その質 (生物情報) などにより重要性を評価します。そして、それらが集まる範囲を中生態系、中生態系が集まる範囲を大生態系として扱い整理します。これらの整理方法は、平成 12 年策定時と同じ方法を踏襲しました。

基本となる小生態系の選定は次の考え方に基づきました。

■ 可視的に把握できるまとまった環境単位とする

単独あるいは類似した数個の植物群落により認識する

■ 宝塚市の生物情報が整理できる広がりとする

各種の生物情報はため池、湿原、社寺林などに集中している

■ 将来の市域の開発行為において、ミティゲーションが検討できる広がりとする

開発行為における市内の生物多様性保全のために、現実的にミティゲーションが行える面積であること

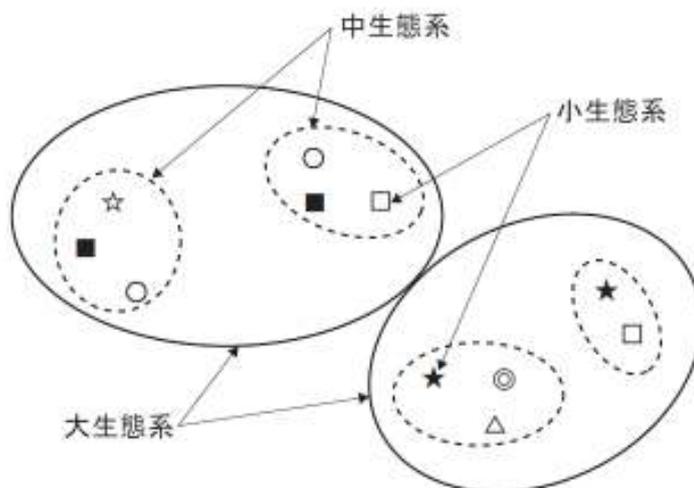


図 3.1-1 生態系の考え方の模式

3.2 生態系の捉え方

(1) 小生態系

先に述べた考え方のもと、宝塚市における小生態系として、次の環境単位が考えられます。

ため池、水田、放棄水田、河川、湿原、孤立した森林(照葉樹林、その他の二次林など)、その他

(2) 中生態系

中生態系としては、谷筋に開かれた水田や谷頭のため池及びそれらを取り囲む林など、原則として複数の小生態系が集合した集水域単位の生態系とします。広がり数十 ha 程度の規模の生態系とします。

(3) 大生態系

大生態系としては、中生態系を包括する 100ha 以上の規模の生態系とします。宝塚市の場合では、ほぼ二次支川の集水域に相当します。

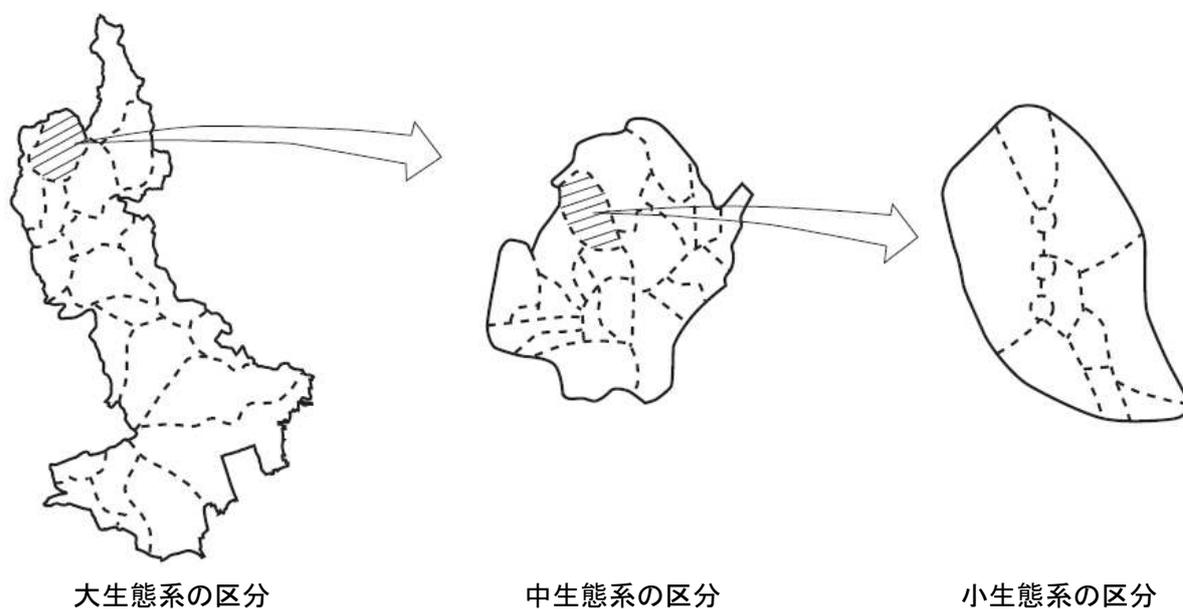


図 3.2-1 宝塚市での生態系の捉え方

3.3 重要な生態系の名称

特定の環境や良好な植生の成立とその条件に結びついた動物（群集）が生息し、宝塚市の自然を考える上で保全することが望ましいと考えられる生態系を「重要な生態系」とし、小生態系、中生態系、大生態系に対して、それぞれスポット、エリア、ゾーンの名称を設けました。

■スポット

定義	重要な小生態系をスポットとします。
設定の目的	現実的な保全行為がとれる規模で地域を指定し、保全を促すことを目的として設定しました。
対象例	社寺林（林縁群落まで含む）、湿原（複数のタイプまで含む）、ため池（堤体や流入部のハンノキ林、ナツツバキの生育地まで含む）、河川（規模の大小によらない）などが対象となります。
保全対象とする生物分類群	魚類、貝類、地上徘徊性昆虫類などが対象となります。
その他	評価項目ごとに評価点を与え、総合得点によりランク付けを行います。河川については、場所を特定する詳細な情報が少なかったことから、河川敷全体を細長くスポットとして捉えました。

■エリア

定義	複数のタイプのスポットが集中したり、保全が強く望まれるスポットが存在、あるいは存在する可能性のある中生態系をエリアとします。また、生物の詳細な分布情報はないものの、場全体として良好なことが分かっている中生態系をエリアとします。
設定の目的	中生態系レベルでの重要さが確認された特定の区域を指定し、保全を促すことを目的として設定しました。
対象例	谷に伸びる水田を囲む集水域、多様な鳥類が生息する斜面などが対象となります。また、自然を利用し保全することを目的に、宝塚市が設けた公園や施設（宝塚市立自然の家、北中山公園）なども対象とします。
保全対象とする生物分類群	両生類・爬虫類、昆虫類、小型鳥類、小型ほ乳類などが対象となります。
その他	ランク付けは行いません。

■ゾーン

定義	保全が強く望まれるスポットやエリアが存在、あるいは存在する可能性のある大生態系をゾーンとします。
設定の目的	大生態系レベルで環境保全を図ることが望まれる特定の区域を指定し、保全の方向性を示すことを目的として設定しました。
対象例	佐曽利川流域、立合新田川流域などが対象となります。
保全対象とする生物分類群	猛禽類、中・大型ほ乳類などが対象となります。
その他	ランク付けは行いません。

3.4 スポットのランク付け

3.4.1 評価項目の設定

設定した評価項目は以下のとおりです。評価方法は平成12年策定時の方法を踏襲しました。

設定した評価項目

「植生」、「植物」、「動物」、「地形」、「風景」

(1) 「植生」

- ・生態系の多様性の指標として、植物群落の希少さ、繊細さに加え、特徴的な植物群落の多様性を評価。

(2) 「植物」

- ・対象とするスポットを特徴づける種の多様性や、人為性、環境・生態の特殊性、学術性をもとに重要性を評価。

(3) 「動物」

- ・対象とするスポット内に生息する種の多様性や、人為性、環境・生態の特殊性、学術性をもとに重要性を評価。

(4) 「地形」

- ・中生態系から大生態系レベルで捉えて、学術的に貴重なものを評価。
- ・評価の対象となる箇所は図3.4-1に図示。

(5) 「風景」

- ・様々な存在価値により市民の評価を得ている対象地を評価。
- ・思い出や体験の共有など、人と自然との関わりを重視して評価。

表 3.4-1 「風景」の例

風景の場所	具体的な例
美的・風致的な価値を持つ場所	早春、タムシバやヤマザクラの開花の美しい林分など
聖域としての価値を持つ場所	各地の社寺林など
思い出のある場所	毎冬、イカルの大群がやってくる近所の林など
体験を共有した場所	民話や固有地名の伝わる淵や山頂など

※ 景観という語には、「景観生態学」的な意味合いと、従来使われてきた視覚的に認知できる空間の姿をさす狭義の意味合いとがある。両者の混乱を避け、また将来的に本書を広く市民が親しむ目的も含め、本書では、狭義の「景観」を用いず「風景」を用いた。

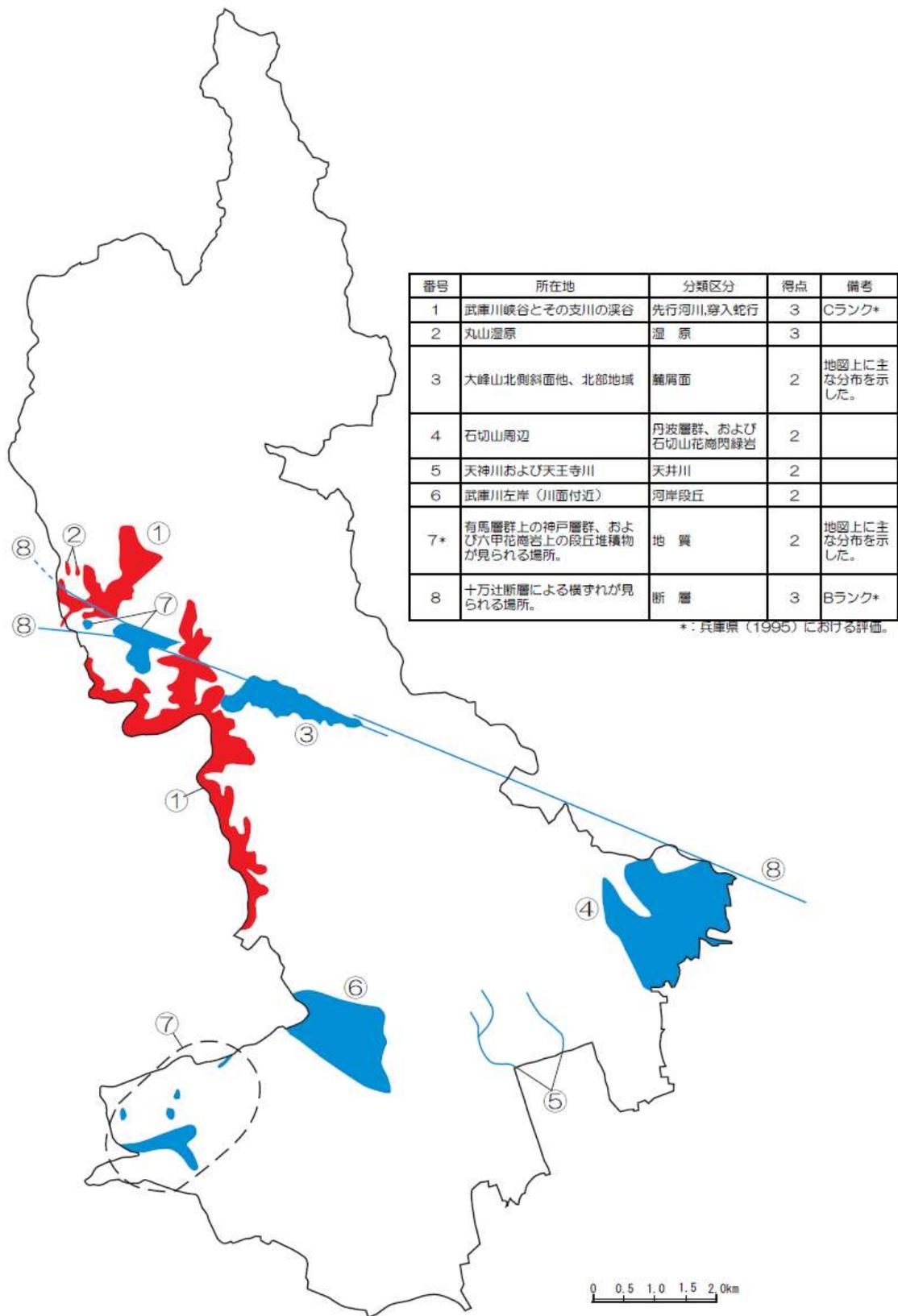


図 3.4-1 地形の評価

3.4.2 評価点の与え方

先に決めた植生、植物、動物、地形、風景の 5 項目に対して、以下の基準で設定した評価点を与えました。

【評価点の基本的な考え方】

3 点：市レベル以上で評価される場合

2 点：地域レベルで評価される場合（地域とは、生物多様性たからづか戦略における地域区分を指す）

1 点：上記以外

表 3.4-2 各項目における評価点の基準

評価項目	得点	評価の基準
植生	3	市レベル以上で貴重な群落が成立している箇所。あるいは立地環境や人の利用に応じた多様な植生が合わさって成立している箇所。
	2	地域内で重要と見なされる群落が成立している箇所。
	1	上記以外
植物	3	市レベル以上で貴重な植物が分布する箇所。あるいは種の多様性の高い環境。
	2	地域内では珍しい植物が分布する箇所。
	1	上記以外
動物	3	市レベル以上で貴重な動物が分布する箇所。あるいは種の多様性の高い環境。
	2	地域内では珍しい、あるいは地域を代表する多様な動物の生息が可能な環境。
	1	上記以外
地形	3	市レベル以上で重要な、あるいは学術的に珍しい地形。
	2	地域内では珍しい、あるいは地域を代表する地形。
	1	上記以外
風景	3	市全域の住民の思い出のある自然環境。
	2	地域住民などからの思い出のある自然環境。
	1	上記以外

3.4.3 評価の区分

各項目で得られた評価点の合計得点が 7 点以上をスポット（重要な小生態系）とし、以下の基準で 4 ランクに区分し評価しました。

なお、今回の改定において、立入り制限などを理由に現地踏査において存在が確認できなかったスポットなど、詳細な情報の集積が必要と考えられる箇所については、D ランク（情報不足）として新たに区分しました。

表 3.4-3 各ランクにおける評価の基準

ランク	評価基準
A ランク	<ul style="list-style-type: none">・ 県や宝塚市レベルで重要な生態系。・ 合計得点が 12～15 点
B ランク	<ul style="list-style-type: none">・ 市内の生態系を維持する上で核となる重要な生態系。・ 合計得点が 10、11 点
C ランク	<ul style="list-style-type: none">・ 地域内で重要な生態系。・ 合計得点が 7～9 点
D ランク	<ul style="list-style-type: none">・ 地域内で重要と思われる生態系。・ 現地踏査による確認ができていないなど詳細な情報が不足している生態系。

3.4.4 改定にあたっての現地踏査の位置づけ

本年度の改定にあたっては、平成 12 年策定以降新たに発刊・作成された既存資料の収集整理を基本とし、補足的に現地踏査も実施しました。現地踏査は、評価基準の一つとなる動植物の生息・生育状況を把握したものではなく、主にスポットの存在確認を主としています。確認事項としては、社寺林の手入れ具合やため池の存続状況などを観察しています。民有地や立入り制限のある箇所は踏査を行っていないため、現況の把握が十分ではない箇所が存在します。

4. 選定の結果

4.1 選定結果の概要

4.1.1 スポットの選定結果

各資料からの選定・評価の結果、重要な小生態系であるスポットとしてため池、社寺林（社寺林でない照葉樹林を含む）、河川（ヤナギ林やエノキ林などの森林も含む）、孤立二次林（アカマツ林やコナラ林など）、湿原、放棄水田、岩角地など合計 129 カ所が選定されました。その内訳は表 4.1-1 のとおりです。

前回の策定時に比べ、新たに 6 件のスポットが追加されました。これは兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）に選定されている六甲山 1 件（B ランク）と新たに「まち山¹」として選定した孤立二次林 5 件（D ランク）を追加選定したものです。

表 4.1-1 スポットに選定された小生態系と件数

種 類	改定前（平成 12 年）				改定後（平成 24 年）				
	A ランク	B ランク	C ランク	件数	A ランク	B ランク	C ランク	D ランク	件数
①ため池	—	8	51	59	—	8	44	7	59
②社寺林 ²	1	9	18	28	1	9	18	—	28
③河川	1	6	10	17	1	6	10	—	17
④孤立二次林	—	—	7	7	—	—	7	5	12
⑤湿原	1	3	4	8	1	1	4	2	8
⑥放棄水田	—	—	2	2	—	—	2	—	2
⑦岩角地	—	—	2	2	—	—	2	—	2
⑧六甲山地	—	—	—	—	—	1	—	—	1
計	3	26	94	123	3	25	87	14	129

¹ 宝塚市街地から六甲山地や長尾山地に移行する山麓部などにおいて、宅地開発などを経て残存する樹林。六甲山地などの樹林に比べると生物多様性は低いですが、地域に身近な自然として住民による保全や管理が行われるなど、都市部の生物多様性保全を進める上では核となる環境であるため、山地や丘陵地の大規模な樹林とは区別して位置づけられたもの。（参考：生物多様性たからづか戦略 平成24年3月、宝塚市）

² 上記戦略では、まち山の例として「千吉稲荷台明神の社寺林」が紹介されているが、当該社寺林は本書改定前から「千吉大明神の社寺林」として既に選定されていることから、本書においても社寺林として区分・整理した。

4.1.2 エリア・ゾーンの選定結果

中規模の生態系であるエリアは表 4.1-2 に示すよう 13 カ所が選ばれ、ゾーンとしては鳥類の生息環境や市街地からの景観の観点から 9 カ所が選ばれました。スポットを含むこれらの位置は、図 4.1-1 に示します。

表 4.1-2 (1) 選定されたエリアの概要

エリア 番号	地名	含まれるスポット数				選定の理由
		Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	
1	谷田池周辺	—	2	2	—	多様な水辺、良好な里山環境
2	マムシ谷	—	—	3	—	良好な湿原、里山環境
3	猪倉谷	—	—	1	—	良好な里山環境
4	尾ノ切	—	1	—	—	良好な里山環境
5	宝塚市立自然の家及びその 周辺	—	1	3	—	貴重な湿原、良好な里山環境
6	下佐曾利・谷	—	1	2	1	多様な水辺環境
7	猿山川右岸	—	1	—	—	良好な里地環境
8	愛宕池上流	—	1	—	—	良好な里地環境
9	丸山湿原	1	—	—	—	貴重な湿原
10	武田尾	1	—	—	—	貴重な渓谷
11	大峰山北斜面	—	—	—	—	鳥類の良好な生息環境
12	北中山公園	—	2	—	1	市南部にとって貴重な森林
13	塩尾寺	1	—	—	—	鳥類の良好な生息環境

表 4.1-2 (2) 選定されたゾーンの概要

ゾーン 番号	地名	選定の理由
1	佐曾利川流域	昔ながらの里山環境の残存する可能性が高い地区
2	波豆川流域	里山環境の集中する生態系
3	千苺貯水池	大規模な水域とその涵養林からなる生態系
4	川下川流域	丸山湿原の集水域となる範囲を含む森林生態系
5	武庫川本線流域	三田盆地と市街地に挟まれた渓谷景観の主要部分を主体とする生態系
6	立合新田川流域	大峰山北面に広がる麓層面に成立する森林環境と、斜面下部の集落（立合新田）を主体とする生態系
7	大ツラ川流域	希少な猛禽類の繁殖場が連なる地区
8	六甲山系山麓物	生物の生息空間だけでなく防災や水源涵養の観点からも重要な生態系
9	長尾山系山麓部	宝塚市南部の生態系の基盤で、市南部の緑景観の骨格となる生態系

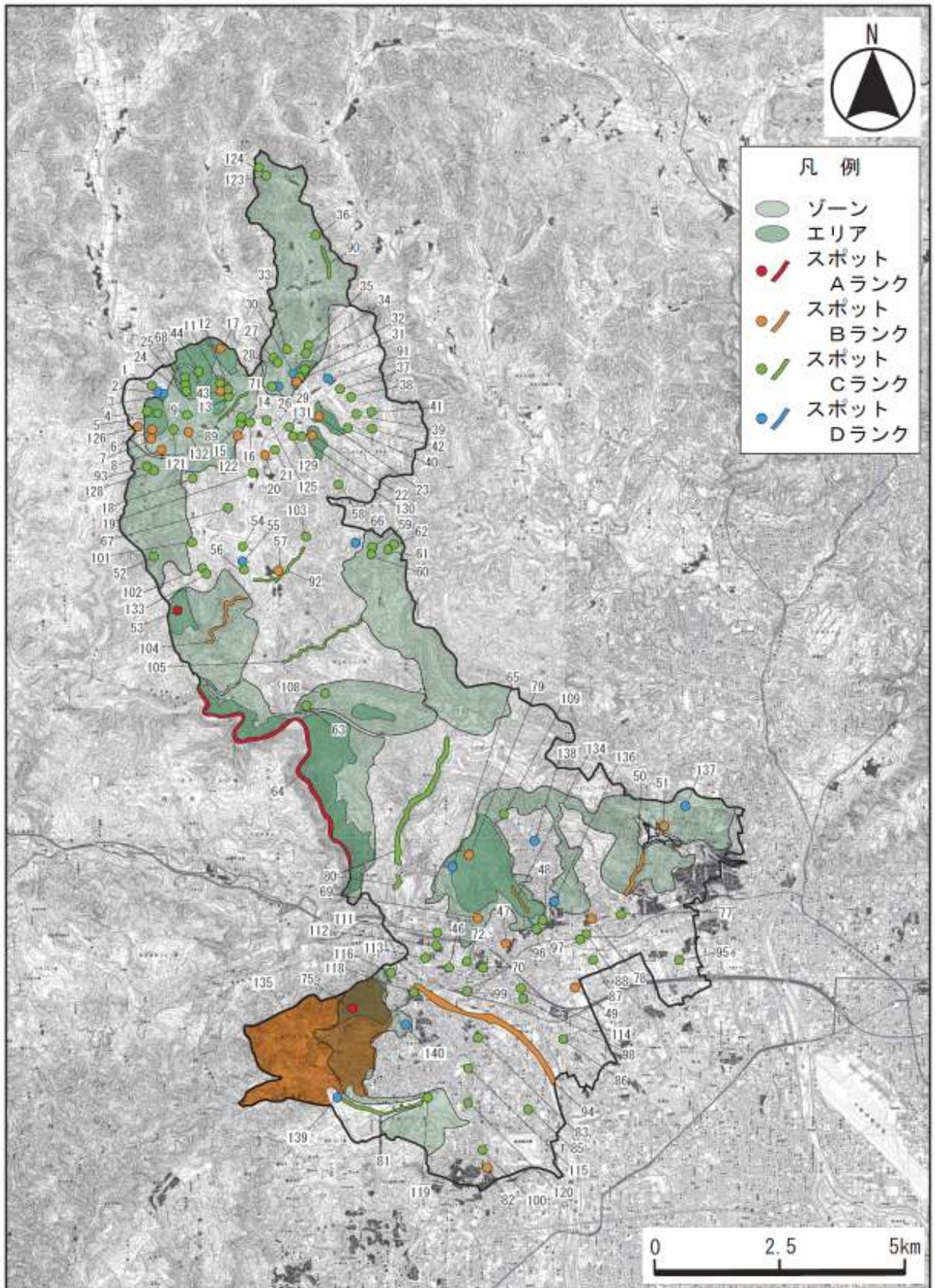


図 4.1-1 重要な生態系位置図

4.1.3 地域的な分布状況

選ばれたスポット、エリアおよびゾーンの宝塚市の地域における分布状況について、概要をまとめました。

(1) 北部地域



農村集落、農地、里山が構成する自然の恵み豊かな環境特性を反映し、数多くのスポットが選定されました。生態系の種類も他の地域に比べると多様であり、ため池、湿原、河川、放棄水田、社寺林、岩角地などが含まれます。貴重種を中心に動植物に関する生物情報が多く、またその情報の多くがため池に集中していることから、スポットの大半をため池が占めています。

耕作放棄地とため池の遷移が進み生態系が単純になっていくことが危惧されます。本改定の現地踏査においても水域の衰退が確認されたため池が数件存在します。市民の協力を得て、里山環境に由来する本地域の生態系の良さをどのように保全していくかが今後の課題と言えます。

(2) 長尾山地域



スポットには、社寺林や河川が選ばれているが、その数は少ない状況です。選定された社寺林には、猛禽類の生息が確認されている中山寺奥の院、清荒神清澄寺、満願寺など、自然性の常緑樹林が比較的広い面積で成立しているのが特徴的です。平成12年策定時に市民の推薦により、ニュータウンに接したコナラ林も一部、スポットとして選定されています。

本地域に占めるゴルフ場の面積は比較的広く、ゴルフ場内に残る樹林も貴重な自然資源と言えます。

(3) 六甲山地域



兵庫県南部に広がる六甲山の東端部です。六甲山、岩倉山などの山地の樹林帯(コナラーアベマキ群集やアカマツ-モチツツジ群集)が多くを占めています。六甲山地は、兵庫県版レッドデータブック(ランク B)に掲載される森林生態系です。六甲山の宝塚市域を対象とした広い範囲ですが、地域住民とのつながりも深く、市域を代表する自然環境の一つであることから最小生態系の単位のスポットとして新規に選定しました。

(4) 山麓地域



全域が市街化区域の本地域では、アラカシやコナラの優占する社寺林に加え、宅地化の際に取り残された孤立二次林にスポットが集中します。まち山として地域住民により手入れされている樹林地をスポットとして新規に選定し、紹介することで地域の取り組みがより活発になることを期待しています。

中山台の南東部に広がる二次林が中生態系の規模に相当する本地域内の唯一の自然環境ですが、生物情報が少ないため、平成12年策定時にはエリアなどとして選定されなかった経緯があります。生物の生息・生育情報など今後の情報収集・整理が課題です。

(5) 南部地域



生物の分布情報が非常に少なく最もスポットの少ない地域です。スポットの大半は社寺林で占められていて、その他には安倉上池と大堀川国府橋付近のエノキ林が選定されています。生物の分布情報が少ない一方で、オオクチバス(ブラックバス)やブルーギルなどの外来魚の生息が確認されており、在来生態系への影響が懸念されます。

残された自然環境は小面積かつ孤立的であり、エリアやゾーンは選定されませんでした。

他地域のようにまとまった自然環境は少ない反面、宅地や農地に残された自然環境の相対的な重要性は高いといえる。農地の宅地化が進んでいることから、貴重種に限らず本地域に生育・生息する生物に関する早急な情報の収集と評価が望まれます。

4.2 重要な生態系の概要

4.2.1 スポット

スポットとして選ばれた小生態系の内、もっとも多かったのはため池です。次いで社寺林（社寺林でない照葉樹林を含む）、河川（ヤナギ林やエノキ林などの森林も含む）、森林（二次林など）、湿原、放棄水田、岩角地の順になりました。最も多く選ばれたため池のほとんどが、北部地域北部の大原野や長谷などの集落に集まっており、水田や耕作地と一体となった里山の生態系が集中していることがわかります。一方で、南部地域や山麓地域には社寺に発達する孤立した照葉樹林や分断されたアカマツ－モチツツジ群集およびコナラ－アベマキ群集などの二次林のスポットが分布しています。

スポットの評価などの詳細は表 4.2-1 に整理しました。

以下に各スポットに選ばれた小生態系について解説します。

(1) ため池

分布状況：その多くは北部地域に集中し、水田耕作地と相まって里山景観を形成しています。

環境特性：ミクリ類、ミズニラ、ジュンサイ、ヒツジグサなどの水生植物やトンボ類、カエル類、メダカなどが生息するため池空間を小生態系として捉え評価しました。なお、場所によりため池に沿った斜面や流入部などに発達・生育するハンノキ群落や湿原環境および市内では珍しいナツツバキ（ため池の周辺や谷筋沿いに多い）が生育している場所までを統合して、「ため池」と捉えた箇所も存在します。

選定状況

Aランク：－、Bランク：8、Cランク：44、Dランク：7（合計 59 カ所）

保全の方向性：近年はため池の消滅により、水生植物や水生生物がますます希少となってきており、池さらい、畦の刈り取りの継続と共に、ため池自体を維持することが必要です。今回の見直しにおいても、消失したと思われるため池が数カ所存在しているため、早急な対策が必要です。水生生物にはため池だけでなく、周辺の森林環境も生活域として利用している種も多く、各池の集水域を含めたネットワーク化や保全が重要と言えます。

ため池の例



写真提供：宝塚市自然保護協会

(2) 社寺林

分布状況：社叢の照葉樹林として山麓地域や南部地域に集中しています。

環境特性：社寺の境内に保全されている社寺林は、宝塚市の全域に点在しています。社寺林の多くは気候的極相林であるコジイ-カナメモチ群集やウラジログシ-サカキ群集ですが、クスノキ、アラカシなどの発達した樹林やスギ-ヒノキ林なども含んでいます。詳細な生物情報が少なく、今後の情報の蓄積が望まれます。

選定状況

Aランク：1、Bランク：9、Cランク：19、Dランク：－（合計 29 カ所）

保全の方向性：基本的に社寺林は今後も残されていくものと考えられる。孤立林では林内が乾燥しないように周辺部へ植栽などの対策が必要となろう。道路の拡張や駐車場の整備などにより樹林の一部が伐採されることもあるため、樹林の重要性を啓発することが重要です。

社寺林の例



(3) 河川

分布状況：武庫川、川下川、惣川、最明寺川など宝塚市内の河川は 40 程度に区別されます。

環境特性：武庫川溪谷（武田尾溪谷）、その下流部（南部平坦地域）や川下川、惣川、最明寺川など河川によって流下する環境は多様と言えます。武庫川溪谷（武田尾溪谷）では希少な植物が集中する溪谷の生態系が成立しています。武庫川（武田尾付近）や、その他の小河川ではゲンジボタルなどが生息しています。河川生態系には、河川敷に発達するアカメヤナギージャヤナギ群集やエノキームクノキ群集などの森林植生も一部含まれています。

選定状況

Aランク：1、Bランク：5、Cランク：10、Dランク：－（合計 16 カ所）

保全の方向性：河川改修などによる直接的な河川環境の改変及び水質の悪化などに留意する必要があります。

河川の例



写真提供：宝塚市自然保護協会

(4) 孤立二次林

分布状況：山麓地域、南部地域に集中して分布します。

環境特性：アカマツーモチツツジ群集、コナラーアベマキ群集などの孤立した二次林で、市街地が広がる市南部では貴重な樹林（まち山）となっています。鳥類の生息環境や地域の景観の軸とり、都市部の生物多様性保全の核となる環境です。都市部ではこのような環境は存在するだけで重要と言えます。今後は、林内が乾燥しないように周辺部への植栽などの対策を検討するほか、市街地の緑化によりネットワーク化を図ることも重要と言えます。

選定状況

Aランク：－、Bランク：－、Cランク：7、Dランク：5（合計12カ所）

保全の方向性：孤立林では林内が乾燥しないように周辺部へ植栽などの対策が必要です。まち山として地域コミュニティによって管理されていますが、今後も永く継続されることが重要です。

孤立二次林（まち山）の例



(5) 湿原

分布状況：兵庫県内でも最大規模の湿原群を有する丸山湿原を始め、北部地域の小さな谷を中心に分布します。

環境特性：シロイヌノヒゲ・イトイヌノハナヒゲ群落などが基盤となり、モウセンゴケ類、ミミカキグサ類、ラン類などの植物やハッチョウトンボをはじめとするトンボ類やヒメタイコウチなど多様な生物が生息し、小さな生態系を形成しています。

選定状況

Aランク：1、Bランク：1、Cランク：4、Dランク：2（合計8カ所）

保全の方向性：湿原は地質的な特性、周辺からの水の流入・排水など微妙な水環境から成り立っており、湿原という点的な視点ではなく、集水域を含めた広い範囲での保全が必要です。また崖錐・麓屑土砂流積が分布する谷部は、小規模で崩れ落ちたりするため、新たな湿原が形成される潜在的な立地と言えます。現存する湿原だけでなく、潜在的な立地の確保も検討しておく必要があると考えられます。丸山湿原などの貴重な湿原は、将来的には天然記念物指定も含めた保全策を検討する必要があります。

湿原の例



写真提供：宝塚市自然保護協会



(6) 放棄水田

分布状況：玉瀬、境野の谷に存在します。

環境特性：耕作が放棄された水田跡でメダカ、ドジョウ、モリアオガエルなどの生物の生息情報があつたため選定されています。放棄水田では、多様な水生生物が生息している可能性が高い一方、植生の遷移などで環境が急激に変わる可能性が高く、今後の継続的な情報収集が必要です。

選定状況

Aランク：－、Bランク：－、Cランク：2、Dランク：－（合計2カ所）

保全の方向性：ネザサ類が繁茂し、クズがマント化している箇所も一部見られたため、今後の遷移状況を把握する必要があります。さらに情報を収集・整理し、詳細な現状把握から始める必要があります。

放棄水田の例



(7) 岩角地

分布状況：千叻貯水池南部の大岩岳端や、宝塚温泉付近の武庫川右岸などに点在します。

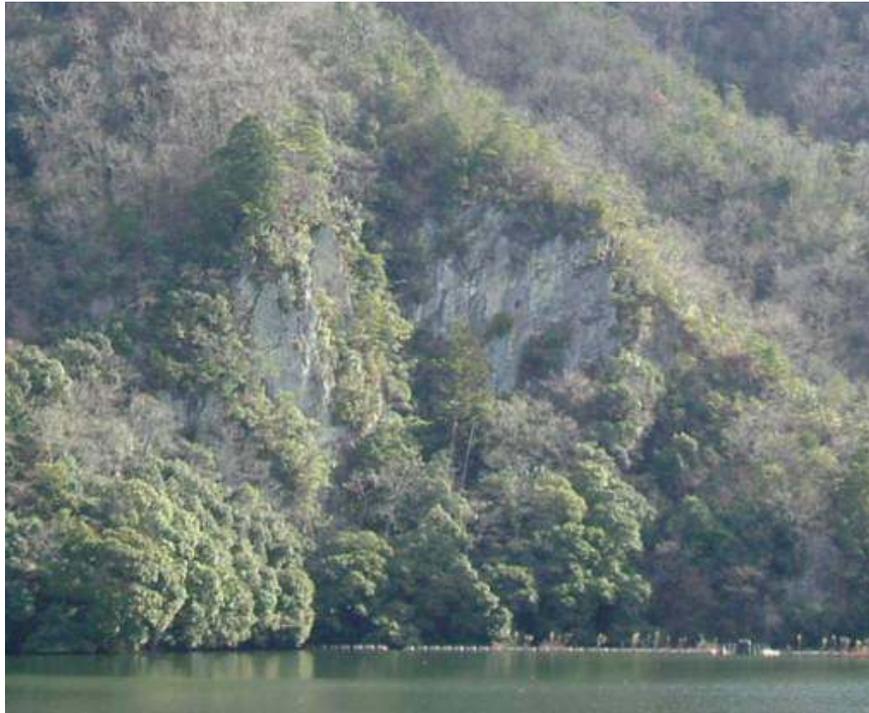
環境特性：土壌のほとんどない岩角地に発達するアカマツ-シノブ群集が基盤となり、ウチョウラン、ムギラン、マメヅタランなどの貴重なラン科植物が生育します。生物情報はほとんどなく、今後の収集が望まれます。

選定状況

Aランク：－、Bランク：－、Cランク：2、Dランク：－（合計2カ所）

保全の方向性：現状の維持が最優先です。

岩角地の例



(8) 六甲山地

分布状況：六甲山地の森林生態系です。

環境特性：六甲山地は、兵庫県版レッドデータブック（ランク B）に掲載される森林生態系です。地域住民とのつながりも深く、市域を代表する自然環境の一つと言えます。

選定状況

Aランク：－、Bランク：1、Cランク：－、Dランク：－（合計1カ所）

保全の方向性：六甲山地では国の砂防事業の一つ「六甲山系グリーンベルト整備事業」として災害に強い森づくりが行われています。また、行者山のハイキングコースなどでは山岳連盟による登山道を中心とした美化活動が行われるなど、地域住民の活動の場になっています。今後も継続的な維持管理が必要です。

ポイントとしては例外的に広い範囲ですが、最小生態系としてランクを設けることで、市域における重要な自然環境の一つとして位置づけ、地域住民の自然意識や活動が継続されることをねらいとしています。

六甲山系岩倉山



表 4.2-1 (2) スポット一覧 (2/3)

地点 番号	区分	地名	条例等の指定状況			H23調査結果および概要	【前回策定時評価】										【見直し評価】										
			東市天然 記念物	兵庫県 RDB	その他		植生	植物	動物	地形	風景	合計 得点	評価	植生	植物	動物	地形	風景	合計 得点	評価							
51	満願寺	切畑		〇ランク(植物群 落、自然景観)	環境緑地保全地 域、自然環境保全 地区	H23調査結果および概要 境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子 山地の改善に係る情報は無いため、大きな変化はないと想定される	3	2	1	1	3	10	B	3	2	1	1	7	C	2	2	1	1	3	10	B	
52	大岩ヶ岳	波豆		〇ランク(植物群 落、生体系)		境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子 団休により管理され、大きな変化はない様子	2	2	1	1	1	7	C	2	2	1	1	7	C	2	2	1	1	1	7	C	
53	丸山原	玉瀬		〇ランク(植物群 落、生体系)		ため池として若干の衰退傾向が見えるが、大きな変化はない様子	3	3	3	3	3	15	A	3	3	3	3	3	15	A	3	3	3	3	15	A	
54	ため池	境野				位置不明(河床の可能性あり)	2	1	1	1	7	C	2	1	2	1	1	7	C	2	1	2	1	1	7	C	
55	ため池	玉瀬				水生植物が多く生育し、自然度が高い池、大きな変化は見られない様子	2	2	3	1	1	9	C	2	2	3	1	9	C	2	2	3	1	1	9	C	
56	ため池群	玉瀬				社寺林は荒廃しておらず、大きな変化はない様子 通地福生は、兵庫県RDBのBランクに該当する群落であり、貴重な群落が維持されてい る様子	3	2	1	1	3	10	B	3	2	1	1	3	10	B	3	2	1	1	3	10	B
57	養護神社	玉瀬		Bランク (植物群落)		水質は比較的良好で、大きな変化はない様子	2	1	3	1	1	8	C	2	1	3	1	8	C	2	1	3	1	1	8	C	
58	芝辻新田	切畑				水生植物が多く生育し、自然度が高い池、大きな変化は見られない様子	2	2	3	1	1	9	C	2	2	3	1	9	C	2	2	3	1	1	9	C	
59	ため池	切畑				ため池として若干の衰退傾向が見えるが、大きな変化はない様子	2	1	2	1	1	7	C	2	1	2	1	7	C	2	1	2	1	1	7	C	
60	ため池	切畑				水質は比較的良好で、大きな変化はない様子、周囲も手入れされている。	2	1	2	1	1	7	C	2	1	2	1	7	C	2	1	2	1	1	7	C	
61	ため池	切畑				武庫川に流入する沢であり、大きな変化はない様子	2	2	1	3	1	9	C	2	2	1	3	1	9	C	2	2	1	3	1	9	C
62	ため池	切畑				市域を代表する景勝地の一つであり、大きな変化はない様子	3	3	3	3	3	15	A	3	3	3	3	15	A	3	3	3	3	3	15	A	
63	波谷	切畑			自然景観	管理道路立入り規制のため未確認	3	2	2	1	3	11	B	3	2	2	1	3	11	B	3	2	2	1	3	11	B
64	藍田尾浜谷	玉瀬		〇ランク(植物群 落、生体系)、 Bランク(地形・地 質、自然景観)		入山規制で立入り不可	3	3	2	1	2	11	B	3	3	2	1	2	11	B	3	3	2	1	2	11	B
65	米谷高原庭園	中山寺				公園内の敷地の一部として管理されており、大きな変化はない様子	3	2	2	1	1	9	C	3	2	2	1	9	C	3	2	2	1	1	9	C	
66	養護神社	玉瀬		〇ランク (植物群落)		観察施設の一部として管理されており、大きな変化はない様子	3	2	2	1	1	9	C	3	2	2	1	9	C	3	2	2	1	1	9	C	
67	保谷池庭園	大原野中部				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	3	1	3	1	3	11	B	3	1	3	1	11	B	3	1	3	1	3	11	B	
68	尾ノ切庭園	大原野西部				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	3	1	1	1	2	8	C	3	1	1	2	8	C	3	1	1	1	2	8	C	
69	海荒神 清滝寺	清荒神		〇ランク (植物群落)		位置不明(河床の可能性あり)	2	1	2	1	1	7	C	2	1	2	1	7	C	2	1	2	1	1	7	C	
70	八咫神社	清荒神				市街地に残存する林、一部荒廃傾向が見られるが、市街部の既存緑地として重要度は 高い。	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
71	ため池	下佐登利				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	3	1	3	2	3	12	A	3	1	3	2	12	A	3	1	3	2	3	12	A	
72	御殿山(中学校南)	川面				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	1	1	1	1	3	7	C	1	1	1	3	7	C	1	1	1	1	3	7	C	
75	植園寺	伊子志		〇ランク (植物群落)	特別緑地 保全地区	境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	1	1	1	1	3	7	C	1	1	1	3	7	C	1	1	1	1	3	7	C	
77	松原神社	山本東		〇ランク(植物群 落、生体系)	自然環境 保全地区	境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	3	2	1	1	3	10	B	3	2	1	3	10	B	3	2	1	1	3	10	B	
78	天淵神社	山本西		〇ランク (植物群落)	自然環境 保全地区	境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	3	1	3	1	2	10	B	3	1	3	1	2	10	B	3	1	3	1	2	10	B
79	中山寺 奥ノ院	中山寺		Bランク、〇ランク (植物群落)		山間の小沢川であり、大きな変化はない様子	1	1	2	1	2	7	C	1	1	2	1	7	C	1	1	2	1	1	7	C	
80	慈川	川面・切畑				自然度は高くはないが、市街地のため池として、環境的・景観的な重要度が高い。遊歩道 などが整備されており、大きな変化はない様子	2	2	3	1	3	11	B	2	2	3	1	11	B	2	2	3	1	3	11	B	
81	波瀬川	蔵人				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
82	赤天池	仁川北				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
83	伊和志津神社	伊子志				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
85	養護神社	高岡				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	3	1	3	1	2	8	C	3	1	3	1	2	8	C	3	1	3	1	2	8	C
86	住吉神社	安富中				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
87	八王子神社	中筋				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
88	八幡神社	中筋				水生植物や寄り洲など、水際は自然状態であり、大きな変化はない様子	1	1	3	1	2	8	C	1	1	3	1	2	8	C	1	1	3	1	2	8	C
89	波豆川	波豆川				U字溝であるが、水生生物の生育が確認でき、大きな変化はない様子	1	1	2	1	2	7	C	1	1	2	1	7	C	1	1	2	1	1	7	C	
90	佐智利川支流	上佐登利				水質が濁り続けている(重層の土りあり)	3	2	1	1	1	8	C	3	2	1	1	8	C	3	2	1	1	1	8	C	
91	ため池	長谷				水生植物や寄り洲など、水際は一部自然状態であり、大きな変化はない様子	1	1	3	1	2	7	C	1	1	3	1	2	7	C	1	1	3	1	1	7	C
92	玉瀬川	玉瀬				手入れなどはされていないが、大きな変化はない様子	1	1	3	1	2	7	C	1	1	3	1	2	7	C	1	1	3	1	1	7	C
93	竹林川	波豆				市域を代表する景勝地の一つであり、大きな変化はない様子	1	3	3	1	3	11	B	1	3	3	1	11	B	1	3	3	1	3	11	B	
94	武庫川	東洋・小浜など		〇ランク(植物群 落、生体系)		境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
95	春日神社	口谷西				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	
96	市井島姫神社	中山寺				境内は管理され、社寺林も大きな変化はない様子	2	1	1	1	2	7	C	2	1	1	2	7	C	2	1	1	1	2	7	C	

4.2.2 エリア

エリアとしては13カ所の中生態系が選定されました。良好な里山景観が広がる谷や山麓斜面の保全のために集水域を選定したエリアが6カ所と最も多く、その他鳥類の良好な生息箇所、多様な水辺環境、湿原などの保全を目的に集水域や斜面の一部を選定しました。また、桜の園「亦楽山荘」や北中山公園、宝塚市立自然の家といった市の施設も含まれます。

里山景観の保全を目的としたエリアはすべて北部地域に分布します。エリアに選定されたのはすべて、圃場の整備が行われなかった谷の奥や、山麓斜面に集中しています。このような箇所では土地の売却や休耕田の増加により、環境が加速度的に変化することが予想されます。「身近な自然と山歩き 100 人委員会提言集」(宝塚市、1999)で推薦されている谷も多いため、市民参加で保全を図るシステムづくりが急務と言えます。各エリアの詳細は表 4.2-2 に整理しました。

(1) 谷田池周辺①

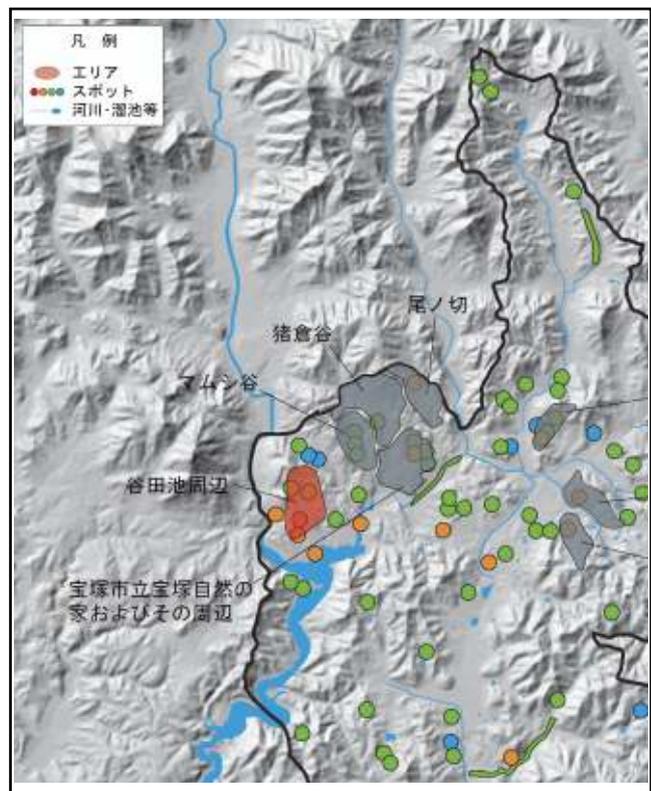
含まれるスポット：No.4、5、6、7（全てため池）

特徴：良好な里山景観の広がる谷。湿潤な水田や放棄水田の間に、比較的大きな谷田池や小さな池が点在し、多様な池沼群落が成立しています。また、過湿な放棄水田や山裾の湧水地にハンノキ群落が生息するのもこのエリアの特徴で、ゼフィルス（樹上性のシジミチョウの一群）の生息場となっています。水辺環境に生息する昆虫類や小動物も豊富で、千苺貯水池周辺において生息・繁殖する猛禽類のエサ場となっている可能性が高いと考えられます。一方で、耕作放棄による生態系の構造の変化が危惧されるエリアとも言えます。

選定の理由：多様な水辺環境のスポットが集中する里山。

その他：地元市民団体の推薦あり（平成12年策定時）。

保全の方向性：エリアを特徴づける池、過湿地、山裾の湧水地などを保全するため、集水域の保全を図る必要があります。



(2) マムシ谷②

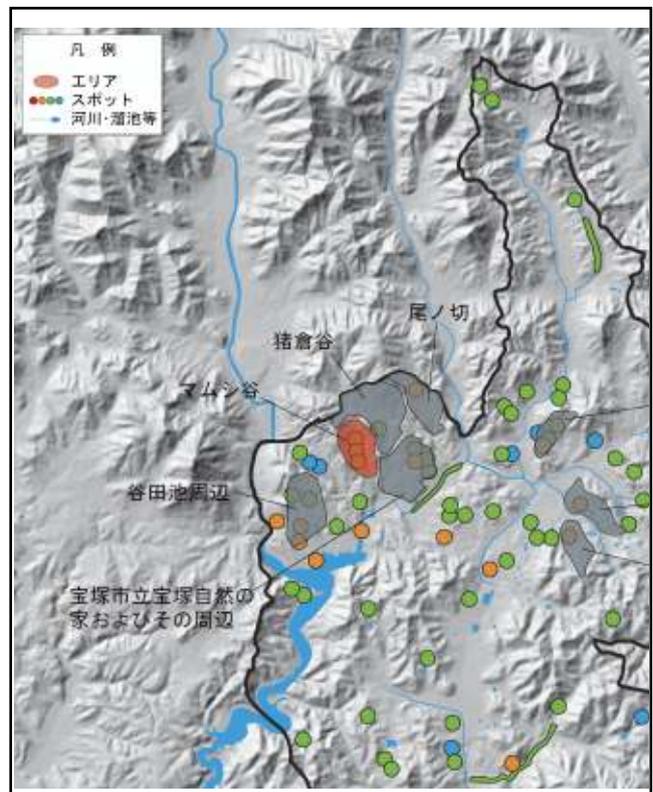
含まれるスポット：No.24（ため池）、No.25（ため池）、No.68（湿原）

特徴：良好な里山景観の広がる谷。水田横を流れる用水路沿いにため池、湿原、ハンノキ林など多様な湿性植生が集中します。特に水田の奥に成立する湿原には、湿原群落の構成種が豊富に生育し、大原野一帯では屈指の湿原と思われます。周辺に広がる里山には、イノシシが数多く確認されているほか、ギフチョウや鳥類の生息場としても良好で、里山環境としての生態系が成立しています。一方で、耕作放棄に伴った遷移が急速に進んでおり、生態系の構造の変化が危惧されるエリアとも言えます。

選定の理由：良好な里山環境。

その他：地元市民団体の推薦あり（平成12年策定時）。

保全の方向性：大原野に残された貴重な湿原の保全が強く望まれます。山裾に見られる湧水も、マムシ谷全体の多様性を高めているため、集水域全体の保全を図る必要があります。また、谷に伸びる里山景観を保全するために、今後は水田（放棄水田）の植生管理も重要と言えます。



(3) 猪倉谷③

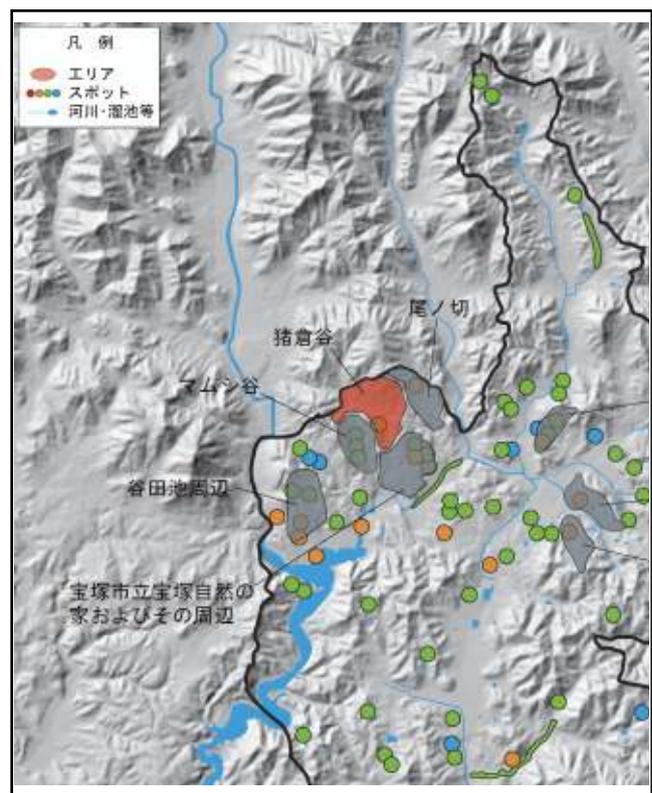
含まれるスポット：No.44（ため池）

特徴：現在も耕作が続けられ、昔ながらの里山景観が維持されている谷。地点の確定できる生物情報が少なかったため、含まれるスポットは1つしかない状態です。しかし、圃場整備が行われず耕作が続けられているこの谷では、畦や山裾の草刈りなどの農作業の継続によって、里山環境に由来する生態系が維持されていると考えられます。当該地域の生態系は、千苺貯水池周辺で生息・繁殖する猛禽類を餌資源として支えている可能性もあり、より広域的な生態系の観点からも重要と言えます。

選定の理由：良好な里山環境。生物情報が少ないが、詳細な調査によってスポットが抽出できる可能性が高い。

その他：地元市民団体の推薦あり（平成12年策定時）。「身近な自然と山歩き100人委員会提言集」（宝塚市、1999）の「猪倉谷コース」では、豊かな自然、花や昆虫などの観察、森林浴に最適なコースとして紹介されています。

保全の方向性：宝塚市立自然の家に連なる谷であること、現在も耕作が続けられていることを考慮すると、西谷の農村景観のモデルとも言えます。水田耕作にかかわる伝統的な農事とともに植生管理を行うことで保全していく必要があります。



(4) 尾ノ切④

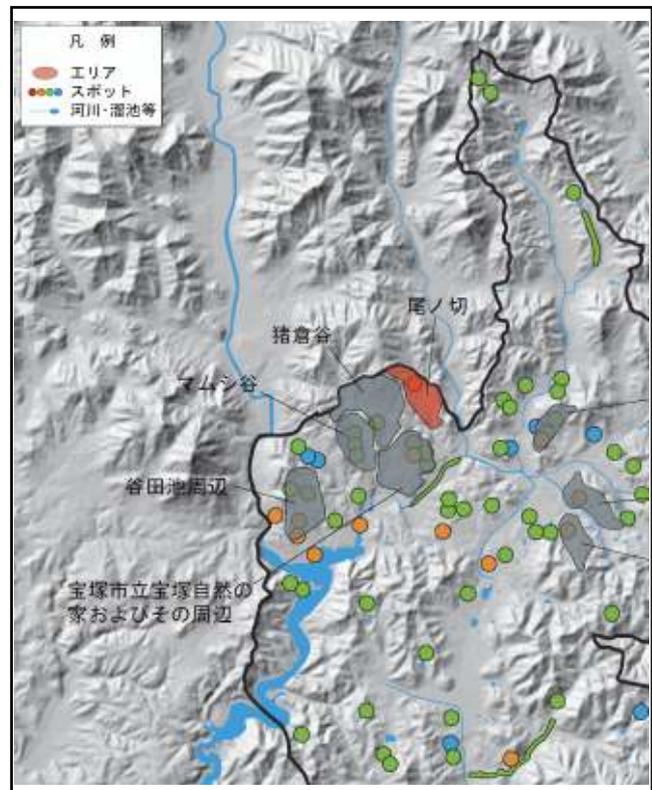
含まれるスポット : No.17 (ため池群)

特徴 : 昔ながらの里山景観がよく残る谷。ハンノキ林やため池が点在し、トンボ類が多く生息しています。過去にはタムラソウの群生が旺盛である事が記録されています。小規模な谷スジからの湧水により湿地が何カ所か確認されており、湿性植物の生育環境として機能しています。

選定の理由 : 良好な里山環境。

その他 : 地元市民団体の推薦あり (平成 12 年策定時)。「身近な自然と山歩き 100 人委員会提言集」(宝塚市、1999)の「猪倉谷コース」の中で、昔ながらの里山の景観が残されており、四季折々の花や昆虫などの観察が楽しめることが紹介されています。

保全の方向性 : 湿原の遷移が進んでいるため、保全のための植生管理が必要。長期的には、猪倉谷と同様に、水田耕作に関わる伝統的な農事とともに植生管理を行うことで保全していく必要があります。



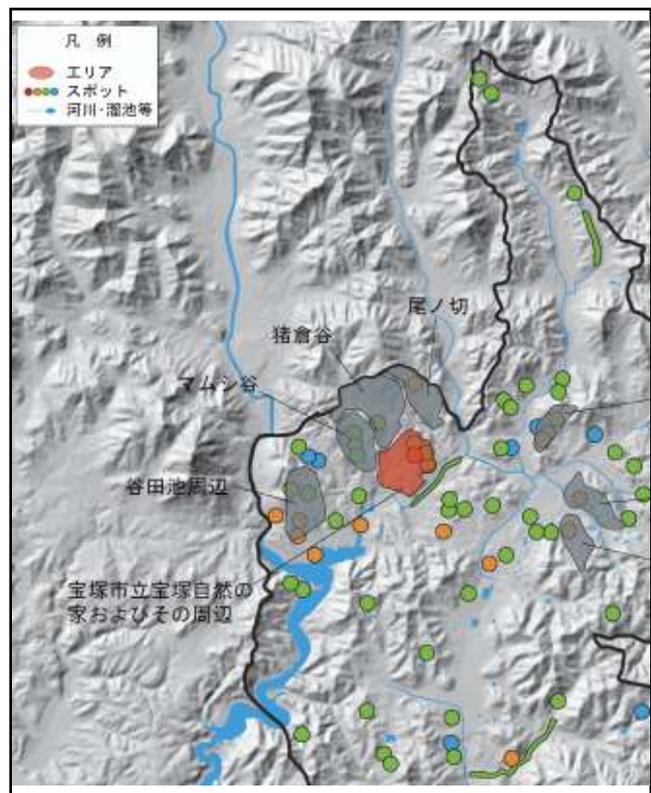
(5) 宝塚市立自然の家及びその周辺⑤

含まれるスポット : No.11、No.12、No.13（以上ため池）、No.43（湿原）

特徴 : 昭和 48 年に設立された青少年の野外活動施設とその周辺。管理が放棄された周辺の里山と比較すると、施設内の里山は市の施設として管理されていることで良好な状態を維持しています。施設内には、市天然記念物で兵庫県の貴重な生態系に指定されている松尾湿原が存在します。湿原内は地元の環境団体によって維持管理が行われており、貴重な植物が保護されています。施設の周辺には、市内で唯一のイヌブナや、やはり市内では珍しいナツツバキが自生している点も特徴的です。また、施設周辺に点在するため池には、多様な湿性植物群落が成立し、メダカやドジョウ、カスミサンショウウオ、モリアオガエルなどの動物も豊富に生息しています。

選定の理由 : 市の施設としてよく管理された里山環境。天然記念物の松尾湿原や市内では珍しい樹木の生育など、多岐にわたる自然環境の存在。

保全の方向性 : 天然記念物を有する市の施設として、西谷の自然環境保全の拠点として位置づけられます。保全に際しては、施設の敷地外ですが、谷筋沿いに生育するイヌブナやナツツバキといった特徴的な植物の生育環境にも留意する必要があります。



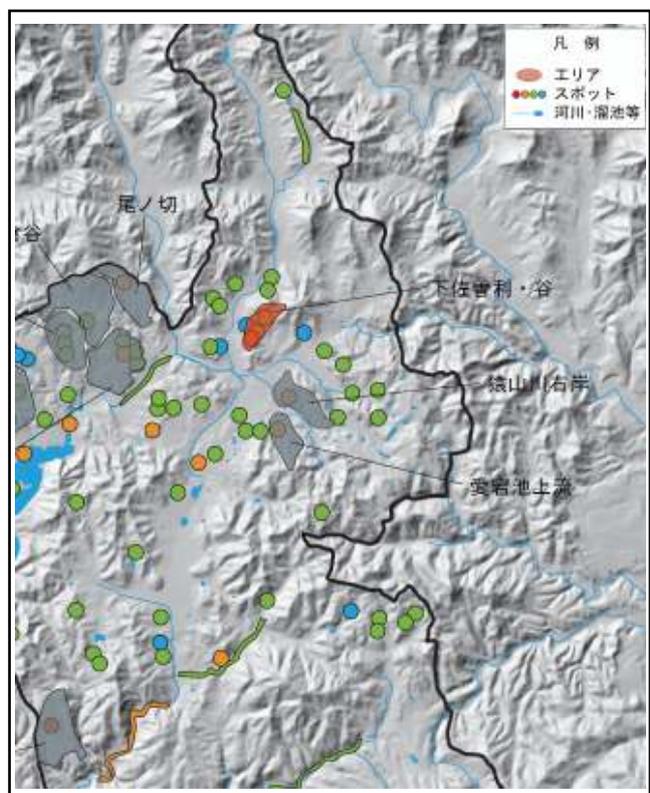
(6) 下佐曾利・谷⑥

含まれるスポット：No.29、No.30、No.31、No.32（全てため池）

特徴：多様な水辺環境がそろった小さな池が集中する谷。池やその周辺には多様な池沼群落、ハンノキ群落、湿原群落などが成立し、メダカ、ドジョウ、カスミサンショウウオ、モリアオガエルやトンボ類など水生生物も豊富に生息しています。遷移途上のハンノキ群落が多い中、本エリア内の池の端に成立するハンノキ群落（スポットNo.29）は、安定した立地環境にあり、景観的にも良好な状態です。下流側では現在でも耕作地が利用されており、植生の管理が行われている様子です。一方で、No. 30 のため池は、水域が消失した可能性が考えられ、谷奥の湿潤な環境では周辺植生の遷移の進行が危惧されます。

選定の理由：多様な水辺環境を伴った池が集中する谷。

保全の方向性：短期的には遷移の進行を抑制し、景観を維持するための植生管理が必要と言えます。長期的には集水域全体の保全を図る必要があると考えられます。



(7) 猿山川右岸⑦

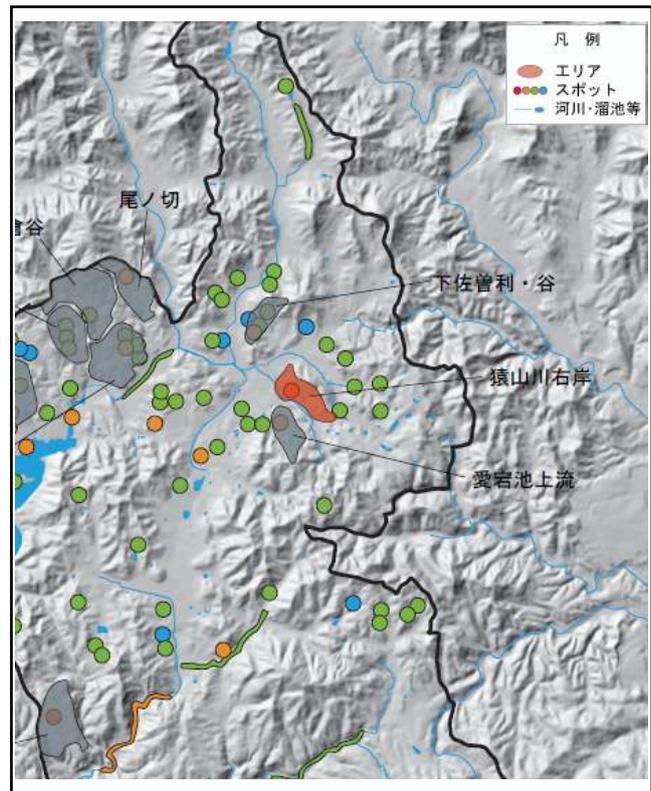
含まれるスポット：No.23（ため池）

特徴：小さな池が点在し、良好な里山景観の広がる山麓斜面。イトモやマルバオモダカといった希少な水生植物の生育が記録され、ゲンバイトンボ、タガメ、コオイムシなどの水生昆虫の生息が確認されています。猿山川にはゲンジボタルが多く、周辺一帯にはドジョウやタイコウチなども確認されているなど、里山環境を主な生息域とする水生昆虫の豊富さが伺えます。ため池の流入部付近の湿った斜面には、市内では珍しいナツツバキの生育記録が残っています。

選定の理由：次頁の愛宕池上流⑧と共に、猿山川周辺を特徴づける良好な里山環境。

その他：地元市民団体の推薦あり（平成12年策定時）。

保全の方向性：点在する数個のため池全てを面的に保全する必要があります。



(8) 愛宕池上流⑧

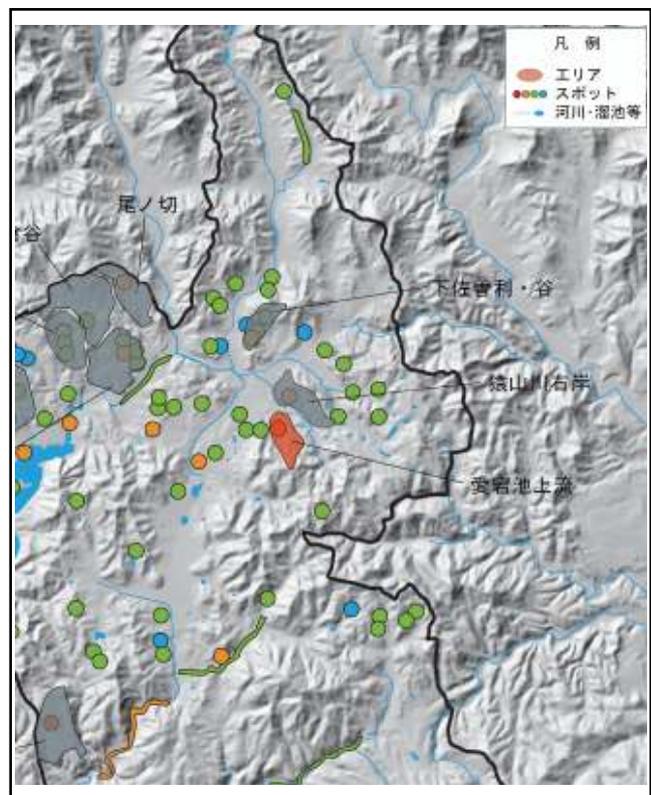
含まれるスポット：No.22（ため池）

特徴：小さな池が点在し、良好な里山景観が広がる山麓斜面。池には多様な植物が生育し、メダカ、モリアオガエルの生息が確認されています。この他、周辺一帯にはドジョウ、タイコウチ、タガメ、コオイムシ、グンバイトンボなど生息も記録されており、里山を主な環境とする水生昆虫などの豊富さが伺えます。

選定の理由：前頁の猿山川右岸⑦と共に、猿山川周辺を特徴づける良好な里山環境。

その他：地元市民団体の推薦あり（平成12年策定時）。「身近な自然と山歩き100人委員会提言集」（宝塚市、1999）の「長谷山コース」において、「ため池の土手では四季折々の花が観察でき、竹藪や雑木林に多くの昆虫や野鳥が生息する、すばらしい景観が残る里山」として紹介されています。

保全の方向性：点在する数個のため池全てを面的に保全する必要があります。



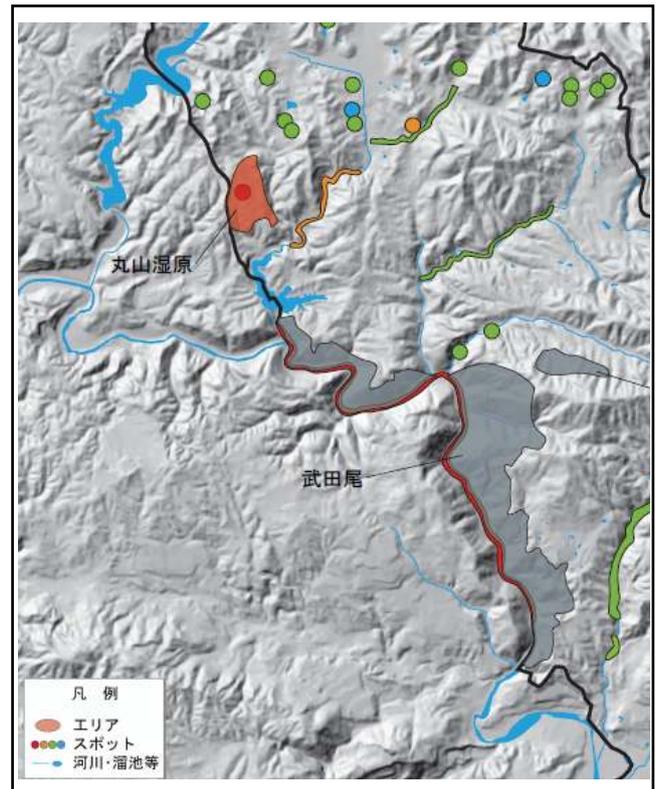
(9) 丸山湿原⑨

含まれるスポット : No.53 (湿原)

特徴 : 兵庫県の貴重な生態系や植物群落に指定されている湿原を含む集水域。湿地環境を好む昆虫類も多く確認されており、氷河期の生き残りとも言われるヒメタイコウチの生息地としては西限域に近いとされます。湿原は地元の環境団体によって管理されています。ハッチョウトンボやサギソウなど湿原特有の希少な動植物が生息・生育する、兵庫県内最大規模の湿原群です。

選定の理由 : 貴重な湿原群。

保全の方向性 : 兵庫県内最大規模の湿原群であり、市域を代表する自然環境の一つと言えます。今後は天然記念物指定などの公的な規制下において保全される事が望まれます。



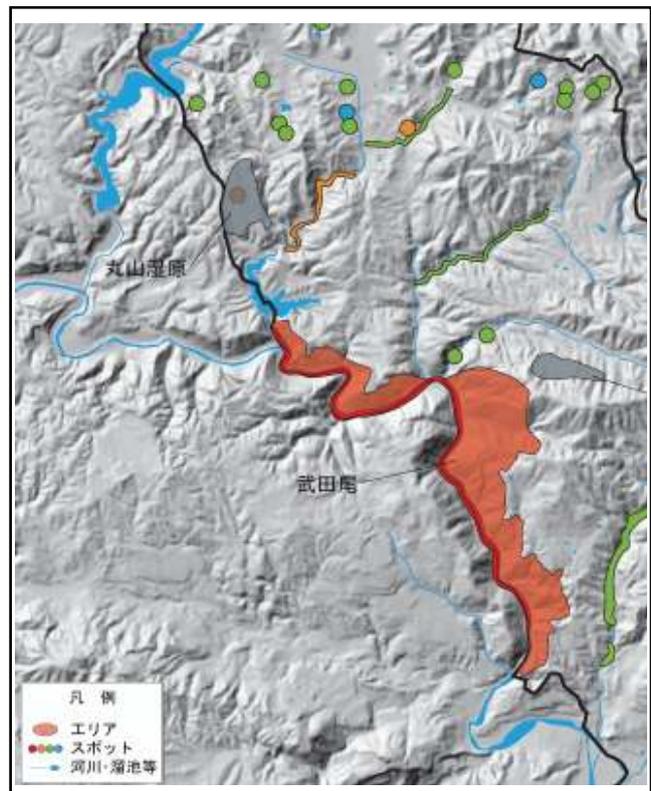
(10) 武田尾⑩

含まれるスポット：No.64（河川）

特徴：武庫川溪谷（武田尾溪谷）を含む集水域です。河川内のサツキ群集などの貴重な植生を始め、溪谷部の斜面に生育記録のあるヨコグラノキ、キヨスミギボウシ、ツメレンゲなどの生育環境も含まれます。水上勉「桜守」のモデルとなった、笹部新太郎博士の桜の演習林跡地（41ha）は「桜の園（亦楽山荘）」として地元の環境団体によって管理されています。

選定の理由：特徴的な溪谷環境であり、文化的側面などからも地域に身近な環境。

保全の方向性：武庫川溪谷（武田尾溪谷）の景観や、溪谷に限定される特殊な動植物の生息域を保全するために、河川敷から尾根部までを一帯として保全していく必要があります。



(11) 大峰山北斜面⑪

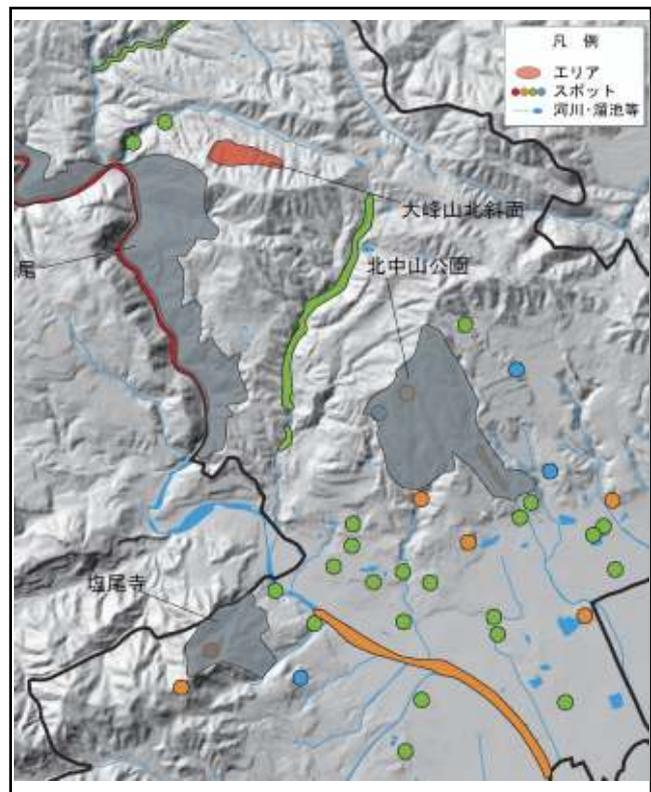
含まれるスポット：なし

特徴：発達した二次林のほか、放棄されたクリ園やスギ植林など多様な森林植生の成立が記録されています。野鳥の生息環境としては、市内有数とされます。人の影響を及ぼしたくないために、一般向けの野鳥観察会ではコースに採用しないと言われるほどです。ただし、得られた生物分布情報は少なく、詳細な生物調査の実施が望まれる地域です。

選定の理由：鳥類の良好な生息環境。

その他：地元市民団体の推薦あり（平成12年策定時）。

保全の方向性：知名度が上がり、人が訪れすぎないように留意する必要があります。また、藪を好む鳥類などの良好な生息環境となっています。放棄クリ園ではクズなどが繁茂し、遷移が進んできています。林内は比較的明るいですが、適度な管理が必要と言えます。



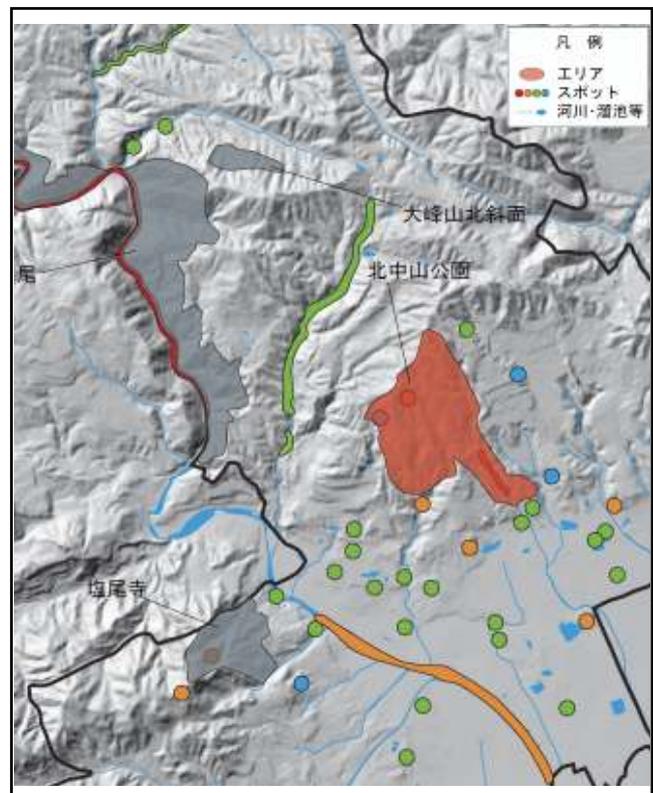
(12) 北中山公園⑫

含まれるスポット : No.65 (湿原)、No.79 (社寺林)、No.134 (河川)

特徴 : 国有林を利用した市の公園。二次林に混じり、自然植生のコジイ群落が広い面積を占めています。さらに湿原も成立し、多様な植生から構成されています。鳥類相も比較的豊かで、ミサゴ、オオタカ、ハイタカなどの猛禽類をはじめ、多様な種類の生息が記録されています。宝塚市南部の生態系の基盤の一つで、市南部の緑景観の骨格ともなる長尾山系南面にあって、252haにもおよぶ本エリアの占める役割は大きいと言えます。

選定の理由 : 市南部の生態系の基礎ともなる面積を占める緑地 : 地元市民団体の推薦あり (平成12年策定時)。「身近な自然と山歩き100人委員会提言集」(宝塚市、1999)の「中山最高峰散策コース」、「宝塚自然休養林周遊コース」では、幅広い年齢層の市民が気軽に山歩きを楽しめるコースとして紹介されています。

保全の方向性 : 国有林や社寺の敷地が含まれるなど、変更の可能性は低いですが、現状の維持が優先されます。



(13) 塩尾寺⑬

含まれるスポット : No.75 (社寺林)

特徴 : 近畿自然歩道の一部にあたり、六甲山地の登山道の東端に位置する地域。塩尾寺には自然植生の常緑広葉樹林が広い面積で成立し、ウラジロガシ・サカキ群落は、兵庫県の貴重な植物群落に指定されています。山腹には広く二次林が広がり、塩谷川から塩尾寺までは市内有数の野鳥の生息地とされています。このあたりに発生する上昇気流を渡りに利用する鳥類も多いとされています。

選定の理由 : 鳥類の良好な生息地。

その他 : 地元市民団体の推薦あり (平成 12 年策定時)。「身近な自然と山歩き 100 人委員会提言集」(宝塚市、1999)の中で家族向け、一般向けの半日程度の手軽なハイキングコースとして紹介されている「宝塚～岩倉山コース」の一部に相当します。

保全の方向性 : 国立公園区域や社寺の敷地が含まれるなど、改変の可能性は低いですが、現状の維持が優先されます。

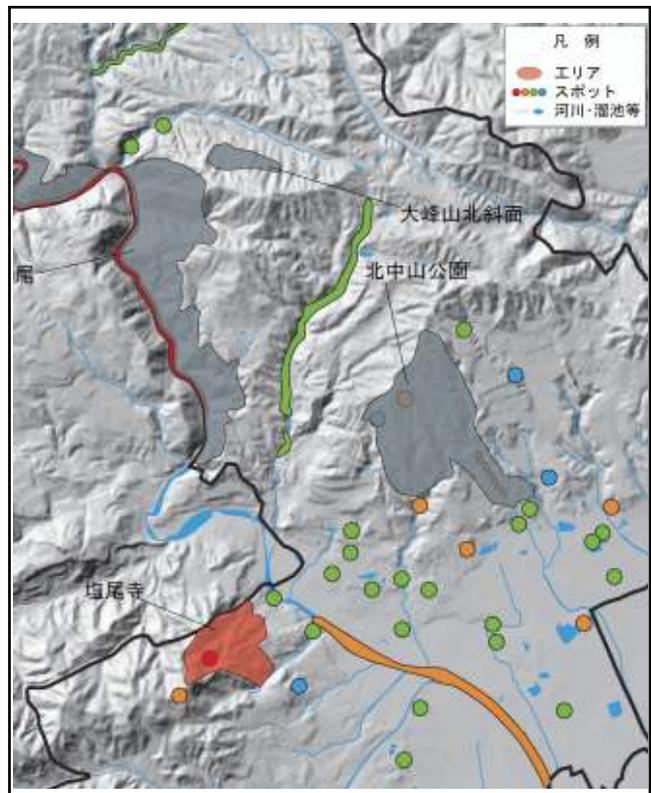


表 4.2-2 エリア一覧

エリア 番号	地名	含まれるスポット			選定の理由
		スポット 番号	区分	評価	
1	谷田池 周辺	4	ため池	C	多様な水辺, 良好な里山環境
		5	ため池	C	
		6	谷田池	B	
		7	谷田池およびその周辺	B	
2	マムシ谷	24	ため池	C	良好な湿原, 里山環境
		25	ため池	C	
		68	尾ノ切湿原	C	
3	猪倉谷	44	ため池	C	良好な里山環境
4	尾ノ切	17	ため池群およびその周辺	B	良好な里山環境
5	宝塚市立 自然の家周辺	11	ため池	C	貴重な湿原, 良好な里山環境
		12	ため池	C	
		13	ため池	C	
		43	松尾湿原	B	
6	下佐曾利・谷	29	ため池群	B	多様な水辺環境
		30	ため池	D	
		31	ため池群	C	
		32	ため池およびその周辺	C	
7	猿山川 右岸	23	ため池群	B	良好な里山環境
8	愛宕池 上流	22	ため池群	B	良好な里山環境
9	丸山湿原	53	丸山湿原	A	貴重な湿原
10	武田尾	64	武庫川溪谷(武田尾溪谷)	A	貴重な溪谷
11	大峰山 北斜面	含まれるスポットは無し		-	鳥類の良好な生息環境
12	北中山 公園	65	米谷高原湿原	D	市南部にとって貴重な森林
		79	中山寺奥ノ院	B	
		134	足洗川	B	
13	塩尾寺	75	塩尾寺	A	鳥類の良好な生息環境

4.2.3 ゾーン

北部地域から山麓地域までの各地から、9カ所の大生態系をゾーンとして選定しました。

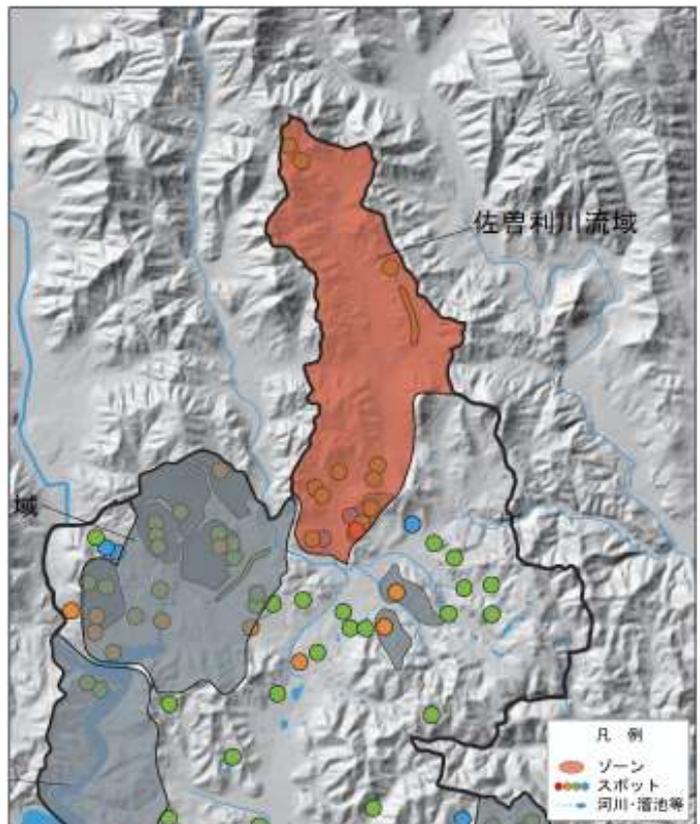
選定の理由は大きく3つに区分できます。一つは、猛禽類の繁殖を将来的に可能とする食物連鎖下位の生物が豊富な里山環境であること、二つ目は良好な溪谷や森林の広がりがあること、三つ目は市南部市街地の景観や緑の骨格として位置づけられることです。

(1) ゾーン1：佐曾利川流域

解説

香合新田、上佐曾利、下佐曾利北部は、詳細な生物の分布情報が少ないですが、「宝塚の野鳥」(宝塚市教育委員会、1983)において、猛禽類(サシバ、アオバズク)の繁殖地の連なる区域として紹介されています。

本ゾーンは生物の分布情報は少ないですが、圃場整備が進んでいない下佐曾利などの環境は、昔ながらの里山環境に由来した生態系が残っている可能性が考えられます。また香合新田は、「身近な自然と山歩き100人委員会提言集」(宝塚市、1999)において、「まことに鄙びた、静かな集落」と紹介されています。このように、佐曾利川流域は里山環境が全域に広がる区域であり、当該環境が猛禽類などの高次の消費者の生息・繁殖を支えているものと考えられます。



保全の方向性

佐曾利川沿いに広がる水田地帯を中心に、流域全体での里山環境の保全が求められます。特に猛禽類の生息を今後も保証するために、両生・爬虫類が生息できる水田や水辺の生態系の保全が求められます。ただし、香合新田、上佐曾利では生物の分布情報が少なく、情報の収集が保全の第一歩と言えます。

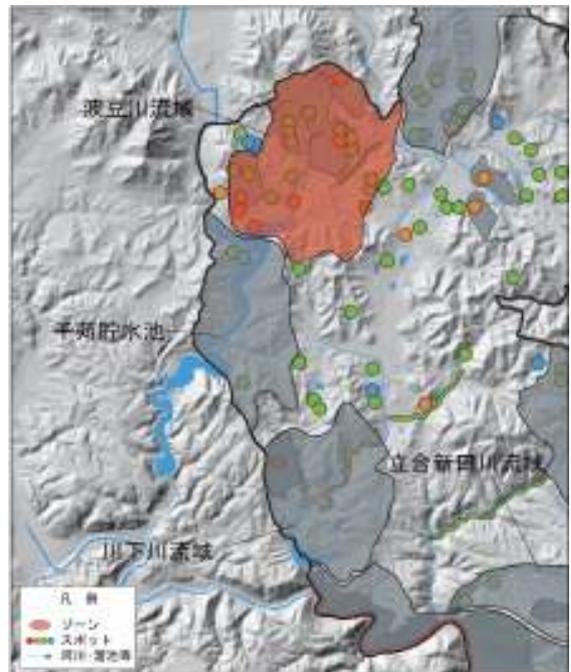
(2) ゾーン2：波豆川流域

解説

良好な里山景観の保全を求めたエリアが4つも集中する区域です。谷筋の奥には、エリアに指定された、小さなため池や湿原の点在する里山景観が残存しています。一方で、波豆川や千苺貯水池の周辺には水田景観が広がり、ミサゴやアオバズクの繁殖地が集中しているとされます。その他、自然性の常緑樹林の成立する波豆神社や、ヤナギ林が成立する貯水池流入部、多様な淡水魚類の生息する波豆川など、北部地域の中でも多様な生態系が形成されている区域と言えます。

保全の方向性

ゾーン北部の里山環境と、ゾーン南部に広がる水田や緩やかな流れの河川環境など、多様な生態系が組み合わさった大生態系の特徴を保全することが重要であると言えます。エリアに指定される環境が集中していることや宝塚市立宝塚自然の家が存在することなどを勘案すると、北部地域の生物多様性保全の拠点として位置づけ、市民と共同した積極的な保全の実施が望まれる区域です。



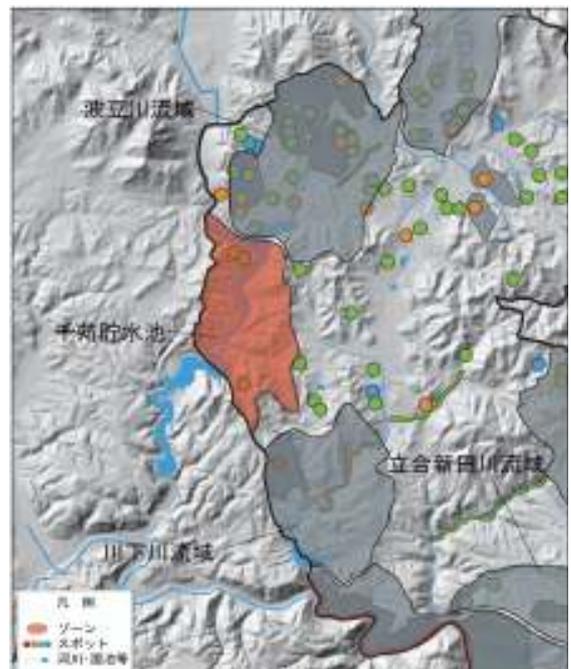
(3) ゾーン3：千苺貯水池

解説

千苺貯水池とその涵養林によって構成される大生態系です。生物の分布情報は普明寺付近に限られますが、人の影響の少ない区域であり、森林環境としては良好な状態が維持されていると推察されます。近郊緑地保全区域として、法的な規制の下で適切に管理されていますが、市民参加による森林整備など、積極的な森林環境の保全が望まれる区域です。

保全の方向性

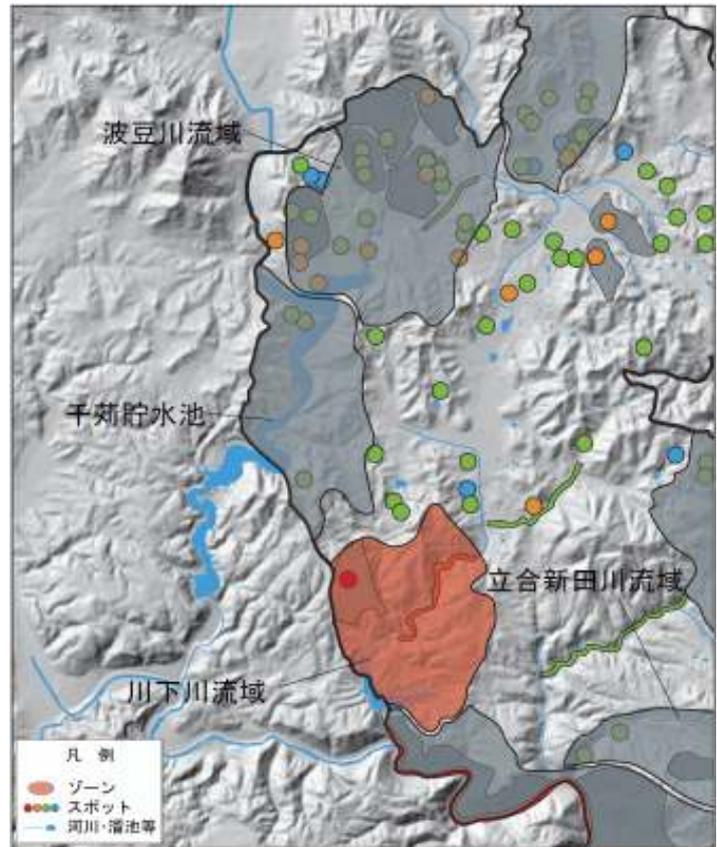
北部地域の森林環境の核の一つとして、現状を維持する方向での保全が望まれます。



(4) ゾーン4：川下川流域

解説

丸山湿原の集水域となるエリアを含む区域で、北部地域に多い里山環境とは異なり、森林環境を主体とする大生態系です。ツルヨシ群落やセキショウ群落が成立する川下川は森林に囲まれ、周辺には多様な鳥類や陸生貝類が生息しているとされます。湿原や川を含む環境のため、止水性、流水性、湿地性など多様なトンボ類が生息します。川下川右岸の竜岩と呼ばれる岩壁には、岩上植生の成立が記録されています。また、川下川周辺にはよく発達したアカマツ林が分布し、近くでは二ホンリスも確認されています。本区域で確認されているオオタカ、サシバ、ミサゴなどの猛禽類やヤマセミの生息・繁殖には、このような多様な小・中生態系に生息する動植物によって支えられているものと推察されます。



保全の方向性

区域内には、丸山湿原の他、溪流環境、アカマツ林を主体とした森林環境、岩角地など、それぞれ貴重種の生息する環境も多く分布しています。近郊緑地保全区域として、法的な規制の下で適切に管理されていますが、市民参加による森林整備など、積極的な森林環境の保全が望まれる区域です。

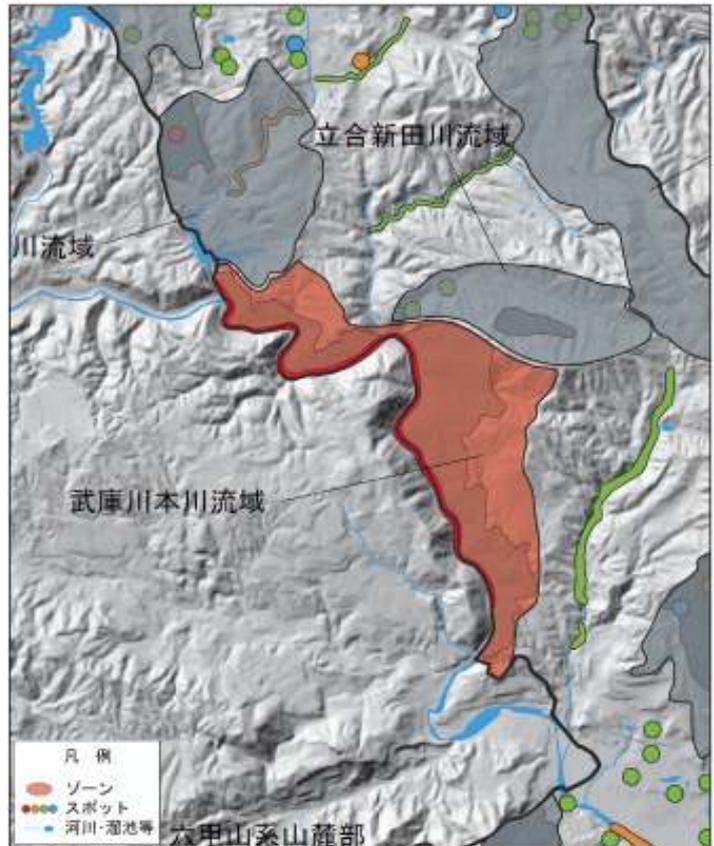
なお、兵庫県内最大規模の湿原群である丸山湿原を保全するため、集水域のみならず、新たな湿原が形成される可能性のある崖錐・麓屑土砂流積が分布する谷部まで含めた保全の検討が必要であると考えられます。そのため区域の範囲は、境野側から川下川ダムまでを設定しています。

(5) ゾーン5：武庫川本川流域

解説

三田盆地と市街地とに挟まれた、渓谷景観の主要部分を主体とする大生態系です。動植物の生息・生育に関する具体的な位置情報は少ないものの、数多くの貴重な植物の生育が知られています。谷状の河川形態や急な斜面に発達する植生などから、独特な生態系を形成しているものと考えられます。

「身近な自然と山歩き 100 人委員会提言集」(宝塚市、1999)によると、武庫川のこの区間には、百畳岩、溝滝、霧池淵、十国の瀬、キンヌキ淵、虎ヶ瀬ほか、固有地名や言い伝えある箇所が連なり、変化のある優れた谷景観が続くとされます。河道内に限らず、本区域では、流水辺から尾根部にかけての広い範囲において、谷や岩上に成立する多様な植生が成立するのも特徴的です。



保全の方向性

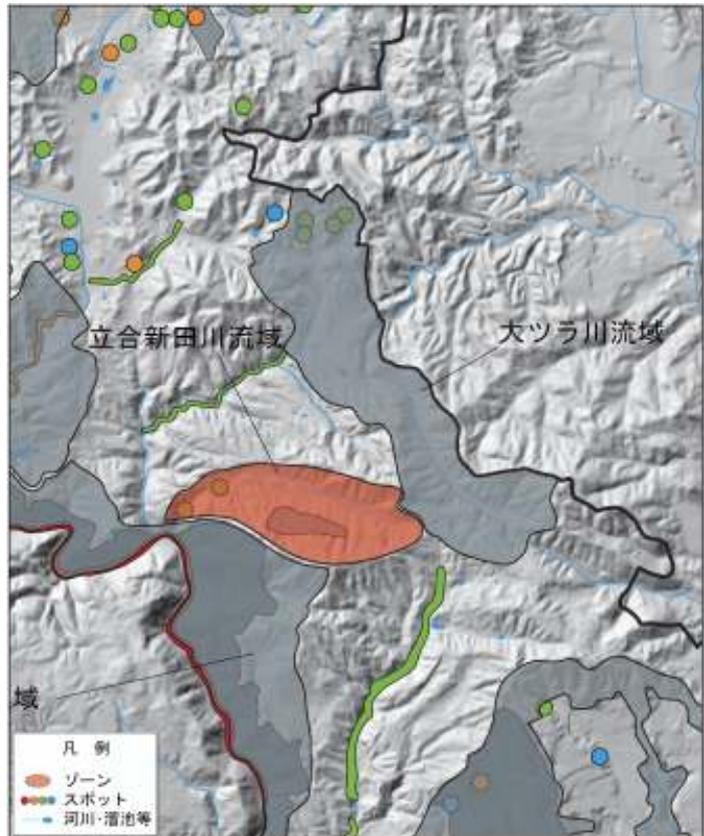
連続する瀬・淵といった水域の多様性や武庫川に面する斜面一帯にかけての集水域全体を一つの生態系と捉え、渓谷景観として保全することが望まれます。自然景観や生態系の保全は固より、谷の成り立ちや言い伝えなども含めた情報を発信し、歴史的・文化的な価値についても継承されることが望まれます。水域や対岸などは管理する関係部局が異なるため、国や県、近隣自治体と一体となった保全の推進が望まれます。

(6) ゾーン6：立合新田川流域

解説

大峰山北面に広がる麓層面に成立する森林環境と、斜面下部の集落（立合新田）を主体とする大生態系です。立合新田川流域や集落の周辺は、両生類や爬虫類が多様とされ、ジネズミやギフチョウといった里地環境を生息域とする重要種の生息が記録されています。また、広い面積を占めるクリ園が放棄され、藪の状態を呈していることから、林縁や藪の環境を好む鳥類にとって良好な生息環境が形成されています。アカマツ・モチツツジ群集も広く分布しており、近くではニホンリスの生息も確認されています。本区域で確認されているオオタカ、サシバ、ミサゴなどの猛禽類の生息・繁殖は、このような多様な小・中生態系に生息する動植物に支えられているものと推察されます。

さらに、武庫川に穿入蛇行となってそそぎ込む溪流部には、小規模ながら渓谷林や滝壺周辺の植生が見られ、多様性を増しています。



保全の方向性

立合新田の里山環境と共に、立合新田川から大峰山北側斜面一帯にモザイク状に成立する森林植生を含めて、山塊全体を一体として保全することが望まれます。特に、鳥類の生息環境として藪状に遷移した放棄クリ園の効果が指摘されていたことから、森林植生を発達させる林分その他、部分的には薪炭林のように皆伐を行い、先駆性植物群落が適度に形成される環境を創ることも望まれます。

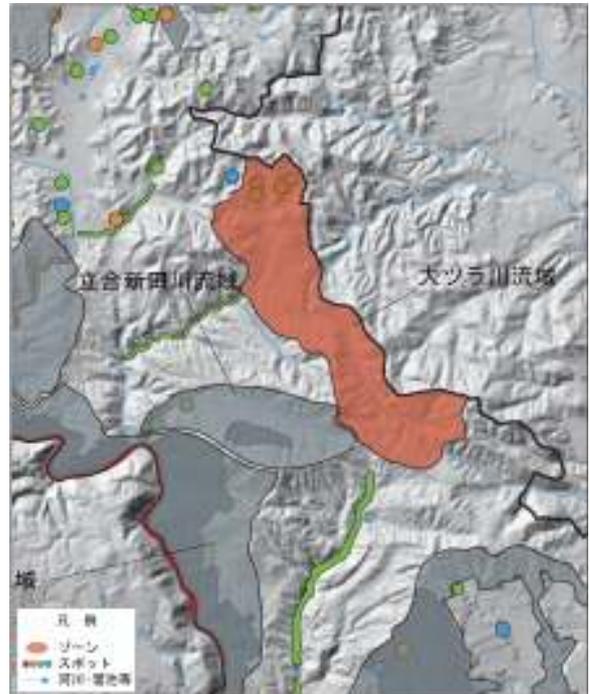
(7) ゾーン7：大ツラ川流域

解説

僧川上流の流域を一部含めて設定した大生態系です。「宝塚の野鳥」（宝塚市教育委員会、1983）によると、猛禽類（サシバ、アオバズク）の繁殖地が連なっている区域です。しかし、スポットやエリアが全く選定されていないことから分かるように、当該区域では生物情報が極めて少ないことが課題の一つです。北部地域の中でも、生物情報の収集、重要な生態系の見直しが急務である区域です。

保全の方向性

サシバ、ハチクマなどの猛禽類の生息・繁殖が維持されるために、餌場となる水田や水辺の生態系の保全が求められます。

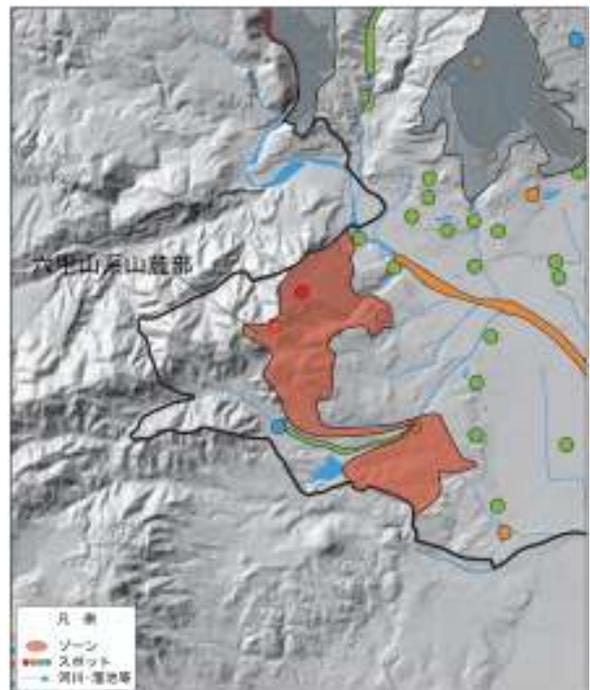


(8) ゾーン8：六甲山系山麓部

解説

市南部の市街地にとって、防災、景観、水源涵養、野生生物の生息空間など、環境上重要な機能を有する大生態系です。塩谷川から塩尾寺にかけては、市内でも有数の鳥類の観察地とされ、また山麓に面した住宅地では、タヌキやキツネの目撃例があるなど、市民にとっても身近な自然環境の一つと言えます。

なお、本区域南部の宝塚ゴルフ場には湿原や逆瀬川が流れ、良好な小・中生態系が成立していましたが、改修により消失した可能性が懸念されます。開発の進む市街地においては、ゴルフ場の環境資産としての価値が高く、生態系の保全に向けての理解と協力が望まれます。



保全の方向性

宝塚市南部（武庫川右岸）の生態系の基盤として、六甲山地へと連続するまとまりのある森林環境の保全が求められます。国や県の森林整備事業の一環として、地域住民による森づくりが展開されるなど、地域に身近な自然環境であり、生物多様性保全の核となる生態系の一つと言えます。

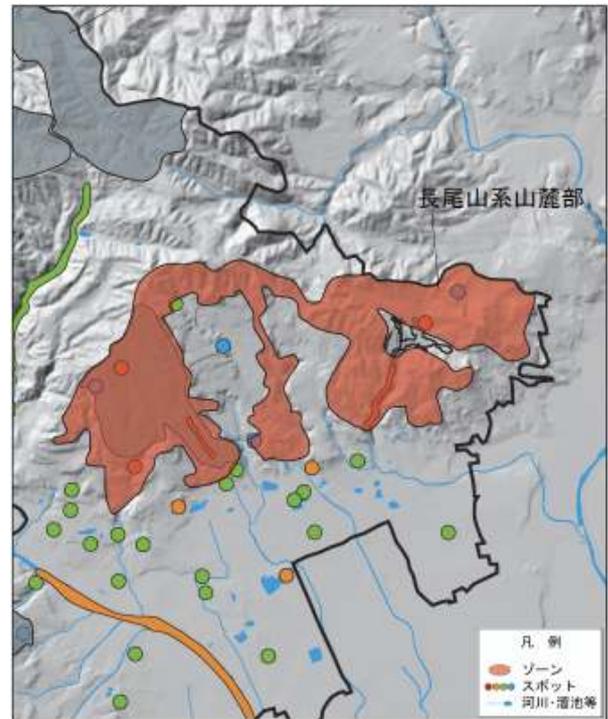
(9) ゾーン9：長尾山系山麓部

解説

六甲山系山麓部ゾーンと同様に、宝塚市南部の生態系の基盤であり、市南部の緑景観の骨格となる大生態系です。区域内には中山国有林(252ha)や満願寺、中山寺、清荒神清澄寺、売布神社など、比較的広い面積で自然環境が担保されている所が散在しています。しかし、山麓部の市街化区域は、宅地開発が進められているため、無用な開発が行われないう、適切な管理が望まれます。

保全の方向性

宝塚市南部(武庫川左岸)の生態系の基盤として、連続的でまとまりのある森林環境の保全が求められます。中筋山手や中山台といった山麓の地区では、地域住民による「まち山」に関連する活動が展開されています。このような活動が継続されていく事が重要であり、支援策の検討などが重要と言えます。



5. 参考文献

- ・ 朝日稔他. 1980. 宝塚市史 第7巻 動物編.
- ・ 環境省. 1931. 国立公園法.
- ・ 国土交通省. 1963. 近畿圏整備法.
- ・ 宝塚エコネット. 2008. 2008年度松尾湿原の植生調査報告書.
- ・ 宝塚市. 1994. 宝塚市の環境の現況と課題一報告書一.
- ・ 宝塚市. 1982. 宝塚市自然環境の保全と緑化の推進に関する条例.
- ・ 宝塚市. 2000. 宝塚市生態系レッドデータブック.
- ・ 宝塚西谷地区湿原群研究協議会. 2007. 丸山湿原エコミュージアム保全整備構想.
- ・ 宝塚市. 宝塚市指定天然記念物.
- ・ 宝塚市. 保護樹等・自然環境保全地区の指定台帳.
- ・ 宝塚市市木・市鳥選定委員会. 1995. 宝塚市の市木・市鳥の選定.
- ・ 宝塚自然に親しむ会. 1998. 宝塚の自然第12号(宝塚市市街地のスミレ類の分布状況含む).
- ・ 宝塚野鳥の会. 1999. 宝塚市内野鳥観察記録.
- ・ 宝塚市. 2007. 丸山湿原自然環境蝶類調査.
- ・ 宝塚市. 1996. 二級河川荒神川生物調査業務 報告書.
- ・ 宝塚市. 2003. 若下池環境調査委託 報告書.
- ・ 宝塚市. 2005. 宝塚大事典.
- ・ 宝塚市自然保護協会. 2011. 宝塚市自然保護協会資料(哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・底生動物).
- ・ 玉瀬地区. 2011. 平成24年度新規採択希望 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金(基盤整備)計画概要書.
- ・ 西日本高速道路(株)兵庫工事事務所. 2006. 平成17年度 第二名神高速道路 川西～神戸間 自然環境調査 報告書.
- ・ 西日本高速道路(株)兵庫工事事務所. 2007. 平成18年度 第二名神高速道路 川西～神戸間 自然環境調査 報告書.
- ・ 西日本高速道路(株)兵庫工事事務所. 2008. 平成19年度 新名神高速道路 川西～神戸間 自然環境調査 報告書.
- ・ 西日本高速道路(株)兵庫工事事務所. 2009. 平成20年度 新名神高速道路 川西～神戸間 猛禽類調査 報告書.
- ・ 西日本高速道路(株)兵庫工事事務所. 2010. 平成21年度 新名神高速道路 川西～神戸間 自然環境調査 報告書.
- ・ 西日本高速道路(株)兵庫工事事務所. 2010. 平成22年度 新名神高速道路 兵庫県域自然環境調査 報告書.
- ・ 兵庫県. 2011. 兵庫の貴重な自然 兵庫県レッドリスト2011(地形・地質・自然環境).
- ・ 兵庫県. 1996. 環境の保全と創造に関する条例.
- ・ 兵庫県. 2001. ひょうごの森百選.

- ・ 兵庫県. 2010. 平成 22 年度兵庫県鳥獣保護区等位置図.
- ・ 兵庫県. 2006. 丸山湿原群に関する自然環境調査.
- ・ 兵庫県. 2007. 丸山湿原群モニタリング調査.
- ・ 兵庫県. 1994. 神戸国際港都建設計画道路 1. 2. 1 号第二名神自動車道 阪神間都市計画道路 1. 2. 4 号第二名神自動車道環境影響評価書.
- ・ 兵庫県. 2010. 兵庫県の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2010 (植物・植物群落).
- ・ 兵庫県. 2003. 改訂 兵庫の貴重な自然 2003.
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館. 1999. 日本産貝類一菊池コレクション一 目録.
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館. 2006. 兵庫県における鳥類の分布と変遷.
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館. 2008. 兵庫県の淡水魚.
- ・ 兵庫県. 2010. 武庫川水系河川整備計画 (原案) 資料編 <<改定版>>.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 1999. 兵庫県産維管束植物.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2000. 兵庫県産維管束植物 2.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2001. 兵庫県産維管束植物 3.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2002. 兵庫県産維管束植物 4.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2003. 兵庫県産維管束植物 5.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2004. 兵庫県産維管束植物 6.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2005. 兵庫県産維管束植物 7.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2006. 兵庫県産維管束植物 8.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2007. 兵庫県産維管束植物 9.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2008. 兵庫県産維管束植物 10.
- ・ 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃. 2009. 兵庫県産維管束植物 11.
- ・ 紅谷進二. 1971. 兵庫県植物目録.
- ・ 林野庁. 1951. 森林法.
- ・ レッドデータブック近畿研究会. 2001. 改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿 2001ー.

(以下平成 12 年策定時資料)

- ・ 岩瀬 徹・小滝一夫. 1997. 湾岸都市千葉市の自然環境保全重点地域. 「湾岸都市の生態系と自然保護」(中村俊彦・長谷川雅美・藤原道郎編). 株信山社サイテック、東京.
- ・ 環境庁. 1978. 第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書「兵庫県」.
- ・ 環境庁. 1981. 第 2 回自然環境保全基礎調査動植物分布図ー兵庫県ー.
- ・ 環境庁. 1989. 第 3 回自然環境保全基礎調査自然環境情報図ー兵庫県ー.
- ・ 環境庁編. 1989. 日本の自然景観 近畿版 II.
- ・ 神戸女学院研究発表資料. 宝塚北部に成立する湿原植生に関する研究ー桃堂湿原についてー.
- ・ 神戸女学院研究発表資料. 宝塚北部に成立する湿原植生に関する研究ー丸山湿原についてー.
- ・ 国土庁土地局国土調査課. 1974. 土地分類図 (地形分類図) 兵庫県.
- ・ 国土庁土地局国土調査課. 1974. 土地分類図 (表層地質図) 兵庫県.
- ・ 島津康夫. 1998. 生態系をどう扱うか. 「環境アセスメントここが変わる」(環境アセスメン

- トコロが変わる編集委員会編). 環境技術研究協会、大阪.
- ・宝塚市. 1994. 宝塚市の環境の現況と課題一報告書一.
 - ・宝塚市. 1995. 安倉上の池生態系調査.
 - ・宝塚市. 1996. 宝塚市環境基本計画.
 - ・宝塚市都市開発部都市デザイン課. 1994. 宝塚アメニティマップⅡ (西谷編).
 - ・宝塚市環境・経済部環境保全課. 1995. 西谷ウォッチングガイド.
 - ・宝塚市企画部. 1993. 宝塚アメニティマップ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1981. 宝塚のかたつむり.
 - ・宝塚市教育委員会. 1983. 宝塚の野鳥.
 - ・宝塚市教育委員会. 1986. 宝塚の植物Ⅰ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1987. 宝塚の植物Ⅱ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1987. 宝塚の植物Ⅲ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1988. 宝塚の植物Ⅳ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1989. 宝塚の文化財.
 - ・宝塚市教育委員会. 1992. 宝塚の昆虫Ⅰ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1992. 宝塚の昆虫Ⅱ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1992. 宝塚の昆虫Ⅲ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1993. 宝塚の昆虫Ⅳ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1993. 宝塚の昆虫Ⅴ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1994. 宝塚の昆虫Ⅵ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1994. 宝塚の昆虫Ⅶ.
 - ・宝塚市教育委員会. 1982. 宝塚のとんぼ.
 - ・宝塚市都市復興部都市デザイン課. 1996. 宝塚アメニティマップⅢ.
 - ・地球環境保全に関する関係閣僚会議. 1995. 生物多様性国家戦略.
 - ・寺田達志. 1998. 環境影響評価法の概要. 「環境アセスメントここが変わる」(環境アセスメントここが変わる編集委員会編). 環境技術研究協会、大阪.
 - ・中村俊彦・長谷川雅美・根岸智子. 1997. 湾岸都市千葉市の野生動植物の分布と土地利用計画. 「湾岸都市の生態系と自然保護」(中村俊彦・長谷川雅美・藤原道郎編). (株)信山社サイテック、東京.
 - ・中村俊彦・長谷川雅美・谷口薫美. 1997. 湾岸都市千葉市の自然環境の保持・復元の方法. 「湾岸都市の生態系と自然保護」(中村俊彦・長谷川雅美・藤原道郎編). (株)信山社サイテック、東京.
 - ・新家 勝. 1995. グンバイトンボは健在、宝塚市西谷. (社)兵庫県自然保護協会月報 あしおと、1995. 8.
 - ・新家 勝. 1996. 伊丹と宝塚の今年のオニバス. (社)兵庫県自然保護協会月報 あしおと、1996. 12.
 - ・新家 勝. 1997. 阪神間のオニバス. (社)兵庫県自然保護協会月報 あしおと、1997. 12.
 - ・新家 勝. 1987. 宝塚市安倉上池のトンボ. 兵庫昆虫同好会会報 きべりはむし、第15巻 第2号.

- ・ 新家 勝. 1988. 宝塚市安倉上池のトンボ (続報その1). 兵庫昆虫同好会会報 きべりはむし、第16巻 第2号.
- ・ 新家 勝. 1994. 宝塚市安倉上池のトンボ (続報その2). 兵庫昆虫同好会会報 きべりはむし、第22巻 第1号.
- ・ 沼田 真(編). 1998. 自然保護ハンドブック. 朝倉書店、東京.
- ・ 沼田 真(編). 1983. 生態学辞典 (増補改訂版). 築地書館、東京.
- ・ 長谷川雅美・浅田雅彦・中村俊彦・藤原道郎. 1997. 湾岸都市千葉市の自然環境と保全対策.
- ・ 「湾岸都市の生態系と自然保護」(中村俊彦・長谷川雅美・藤原道郎編). (株)信山社サイテック、東京.
- ・ 兵庫県. 1978. 特定植物群落調査報告書.
- ・ 兵庫県. 1995. 兵庫県の貴重な自然ー兵庫県版レッドデータブックー.
- ・ 兵庫県. 1997. 宝塚新都市 (仮称) 環境影響評価2 業務委託報告書 (概要書).
- ・ 兵庫県自然保護協会宝塚支部. 1994. ホタル類の分布及び生息環境調査報告書.
- ・ 兵庫県植生誌研究会. 1994. 地域環境調査報告書 兵庫県の植生 Vー三田・広根一.
- ・ 兵庫県植物誌研究会. 1999. 兵庫県植物誌研究会会報、No.41.
- ・ 松尾湿原保全調査委員会. 1999. 市指定天然記念物 松尾湿原 保全調査報告書.
- ・ 水田光雄. 1999. 宝塚市北部西谷地域の水生植物相とその生育環境. 兵庫の植物第9号.
- ・ 身近な自然と山歩き100人委員会提言書. 1999.
- ・ 野生生物を調査研究する会. 1993. 生きている武庫川 (魚類編).
- ・ 野生生物を調査研究する会. 1996. 生きている武庫川 (総集編).
- ・ 野生生物を調査研究する会. 1996. 生きている武庫川 (資料編).
- ・ 野生生物を調査研究する会. 2003. 生きている武庫川 改訂版.
- ・ レッドデータブック近畿研究会. 1995. 近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿一.
- ・ 我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究会植物群落分科会. 1996. 植物群落レッドデータブック.

宝塚市生態系レッドデータブック 2012

発行年月日 平成 24 年 3 月 31 日

編集・発行 宝塚市環境政策課

〒665-8665

宝塚市東洋町 1 番 1 号

電話 0797-71-1141 (代表)
